## <専門分野>

授業	科目名	看護学概	論 I	担当教員名	杉原	雅子 (看護師)	
実施	時期	1 年	前期	単位・時間	1 単位	30 時間	
看護は、人間・健康・野護の機能や看護者の役割関連付けて学ぶ。本授業を通して①実践科学としての看記②健康と病気における安3看護における法的側面④看護の対象を統合体といて理解する。			役割の概要を理 の看護学及び看護 る安寧の促進、及 が側面・倫理的側	解するとともに看	護の対象() つ役割の概要 祉システムは	を理解する。 こついて理解する。	
① 看護の定義、役割と機能、対象について説明できる。 ② 健康のとらえ方の変遷が分かり、健康生活への影響要因、生活習慣、セルフケについて説明できる。 ③ 看護における倫理的側面について説明できる。 ④ 看護の展開における対象との関係性の形成、基盤となる思考過程、連携と協働ついて説明できる。							
回数	単元	単元目標		授業	内容		
1		実践科学としての看	専門職としての看	記録・ 看護の目的と	役割・実践	学としての看護	
2		護学及び看護の機 能や看護者の役割		の教育準備・専門稲	哉としての看記	<b>獲組織・看護実践</b> のため	
3		の概要を理解する。		:護の変遷と21世紀ご求められる看護・国際看護・災害看護の基礎			
4	看護実践	健康と病気における 安寧の促進に対する関りについて理解する。	健康、病気、 ウェルネス (安寧) の定義 健康と病気				
5	天践の 基礎	保険・医療・福祉シ ステムについて理 解する。	保健・医療・福祉の概念・場のタイプ・保健・医療・福祉チームケア提供の経済・動向と課題				
6		看護における法的 側面について理解 する。	法の概念・看護実践の職業的および法的規則・医療事故における法的責任・看護実践に影響を及ぼす法律				
7		看護倫理に関する 基本的知識と倫理 的意思決定を行うた	看護における倫理の必要性 看護倫理とは 道徳的ジレンマと倫理課題				
8		めの枠組みを理解 する。	倫理的課題への 倫理的看護実践	対応 を行うために必要 <i>た</i>	<b>こと</b>		
9	看護の対象	看護の対象を統合	統合体としての				
10	対象	体として理解できる。ストレスと適応	個人、家族、コミ	ュニティ、地域社会			
11		について理解する。	健康障害をもつ ストレスと適応				
12	ライフサ	成長と発達の概念 エリクソンらの発達	成長・発達の概念	<b>念</b>			
13	と健康	理論を理解する。	小児期~成人期	・老年期の概念			
14	看護活動	看護過程及び看護 援助の役割と基本 的援助技術につい て理解する。	看護過程・看護	ケア(看護援助)の	基本的役割・	基本的援助技術	

15	評価 (2時間)
授業形態	講義
評価方法	筆記試験 (80%) レポート (20%)
テキスト	『ナーシング・グラフィカ 看護学概論』 メディカ出版 『看護職の基本的責務』日本看護協会出版会 ヴァージニア・ヘンダーソン 『看護の基本となるもの』日本看護協会出版会フ ローレンス・ナイチンゲール 『看護覚え書』 現代社
参考図書	服部祥子 『生涯人間発達論』 医学書院

授業和	斗目名	看護学	既論Ⅱ		担当教員名	外部講師(	
実施	時期	1 年	前	期	単位・時間	1 単位	30 時間
授業の概要と	と目的	看護実践の基盤となる人間関係成立のプロセスおよび教育・指導に生かす面接技法について学び、その実践への活用方法を習得する。また、援助過程とコミュニケーションの関連性、対象者の尊厳と権利を擁護する方法を学ぶ。本授業を通して ① 基本的なコミュニケーション技術について理解する。 ② 看護におけるコミュニケーションのための知識・技術・態度を習得する。 ③ 看護理論における基本概念を理解する。 ④ 主な看護理論家とその理論を理解する。					
到達	目標	<ol> <li>基本的なコミュニククライン</li> <li>看護におけるコミューター</li> <li>看護理論の基本概</li> <li>4 さまざまな看護理語</li> </ol>	ュニケーシ: 念について	ョンのための て説明でき	D知識・技術・態度	度を理解し、活用	できる。
回数	単元	単元目標			授	業 内 容	
1		コミュニケーションの 解する。	概要を理	「コミュニ	ケーション」とば	可为,	
2 3 4 5 6 7 8	コミュニケーション技術			<ul> <li>(1) コミュニケーションにおける影響因子</li> <li>(2) コミュニケーション技術</li> <li>(3) コミュニケーションと信頼関係</li> <li>(4) コミュニケーション障害への対応</li> <li>(5) プロセスレコード</li> </ul>			
9	の概要	看護理論における基本理解する。	本概念を		箋・種類 の発達と看護理論	命の特徴	
11				` ′	ーレンス・ナイチン	· ·	
12	をまざまな 看護理論	さまざまな看護理論	- ' '		ージニア A.ヘン デガード E・ペフ		
13	理論	看護実践に応用でき 養う。	る胎刀を		ネスティン・ウィー セア E. オレム	ーデンバック	
14				, , ,	ン・ワトソン	な	ど
1	5	評価 (2時間)					
授業	形態	講義					
評価	方法	筆記試験 (100%)					
テキ	スト	『新体系 看護学全書 基礎看護学2 基礎看護技術 I 』 メヂカルフレンド社 『看護技術 プラクティス』 学研メディカル秀潤社 筒井真優美編 『看護理論』 南江堂 フローレンス・ナイチンゲール 『看護覚え書』 現代社					
参考	図書	『看護職の基本的責務 他、適宜紹介	5』日本看	護協会出版	i会 		

授業和	斗目名	基礎看護	学方法論 I	担当教員名	橋本 武憲	(看護師)	
実施	時期	1 年	前期	単位・時間	1 単位	30 時間	
一般状態の観察、生命の徴候であるバイタルサインを測定す 術を習得する。フィジカルアセスメントの概念を理解し、適切 メント技術を習得する。 本授業を通して ① ヘルスアセスメントの概念を理解する。 ② バイタルサイン及びフィジカルアセスメントの意義と測定 客観的データについて理解する。			切な看護を提供す	けるためのアセス			
到達	目標	② バイタルサインの	ノト・フィジカルアセス D意義を理解し、基本に スメント意義を理解し、	的な測定方法を習	得し活用できる。		
回数	単元	単元目標		授業	为 容		
1	ヘルスアセスメント	ヘルスアセスメン ト、フィジカルア セスメントの概 念・基本を理解す る。	ヘルスアセスメントの 最初の視診と一般状態				
2 3 4	バイタルサイン	バイタルサインの 意義を理解し、基 本的な測定技術	一般状態のアセスメン 呼吸・体温・脈拍・I		イン		
5	ザイン	を習得する。	【演習①】 脈拍測知	定 血圧測定			
6			【演習②】体温・脈				
7			フィジカルアセスメン 5つの基本技術(問診				
8	フィ	' '	フィジカルアセスメン 体表解剖 体表面の名称	<i>、</i> トテクニック			
9	ジカ	メントの意義を理 解し、基本的なア	系統別のアセスメントの視点(部分演習): 肺(呼吸器系)				
10	ルアセ	セスメント技術を 習得する。また、	系統別のアセスメン	トの視点(部分演	習): 心臓(循環器	器系) 中枢神経系	
11	スメン	アセスメントする 姿勢を身に付け	【演習③】 体表解剖の 瞳孔の視診、中心静		きさの測定(スク	ラッチテスト)	
12	٢	る。	系統別のアセスメン	トの視点(部分演	[習):消化器系 [	軍動系	
13			【演習④】 肺、心臓	、腹部の聴診			
14			【演習⑤】 体温・脈熱	白・呼吸・血圧測に	定/呼吸音・心音	・腸音聴取	
1	5	評価 (2時間)					
授業	形態	講義 演習					
評価	方法	筆記試験 (100%)					
テキ	テキスト 『新体系 看護学全		書 基礎看護学2 基礎書 基礎看護学3 基礎 青ィス』 学研メディカ	看護技術Ⅱ』 >			
参考	図書		る基礎看護技術 I 看該 ジカルアセスメント ガ	· · ·		ワ	

授業和	科目名	基礎看護学	方法論Ⅱ	担当教員名	浄聖陽子 (看護師)	<ul><li>尾野あゆ子</li></ul>	· (助産師)	
実施	時期	1 年	前期	単位・時間	1 単位	30	時間	
日常生活行動について健康の保持・増進・回復との関連本概念を理解し、環境・感染予防への援助がその人の健康知識・技術を学ぶ。本授業を通して ①人間にとっての環境の意味を理解し、健康的な生活環境る。 ②感染予防策の基本と看護師に必要な感染予防技術を習得 ①環境にはどのような要素があるか悦明できる。				健康に役立つこと 環境を整えるための	を目指し、	基本的な		
到達	目標	②病室における環境調整の方法について説明できる。 ③ベッドメーキングの技術を習得し、活用できる。 ④感染予防策の基本を理解し、看護師に必要な感染予防技術を活用できる。						
回数	単元	単元目標		授業	内 容		担当	
1 2 3	· · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		環境の諸要素と環境の意義、病室と病床の環境	生活サイクル	調整、室内気候			
4	が過れる	人間にとっての環						
5	帰境を佐	境の意味を理解し、 健康的な生活環境 を整えるための援 助方法を習得する。	環境を整える技術	(長)定羽			浄聖	
6	快適な環境を作る技術		「環境を登える权」 ベッドメーキ 【演習①】					
7	, pri			【演習②】	角コーナーの作	り方 プンベッドの作成		
9			感染と感染予防	乗の基礎知識				
10			感染予防におけん	-				
11	感	DVI Plufts dds l	感染源への対策	感染源への対策				
12	感染予防の技術	感染予防策の基本   と看護師に必要な   感染予防技術を習	感染経路への対象		. I		尾野	
13	技	得する。		幾能の増強に向い	J (			
14	ניוק			ケチ洗 、滅菌手袋 、防護用具の使用	の装着、滅菌物の取り 方法 着脱	扱方		
15			感染経路への対象	策				
1	.6	評価(2時間)						
授業	形態	講義 演習						
評価	方法	筆記試験(100%)						
テキ	『新体系 看護学全書 基礎看護学2 基礎看護技術 I 』メヂカルフレンド社 デキスト 『新体系 看護学全書 基礎看護学3 基礎看護技術 II 』メヂカルフレンド社 『看護技術 プラクティス』学研メディカル秀潤社							
参考	『基礎看護学 考える基礎看護技術 I 看護技術の基本』ヌーヴェルヒロカワ 参考図書 『基礎看護学 考える基礎看護技術 II 看護技術の実際』ヌーヴェルヒロカワ 小松浩子・菱沼典子編『看護実践の根拠を問う』南江堂					カワ ュカワ		

授業科	4目名	基礎看		担当教員名	若林 理恵子(看護師)			
実施	時期	1年	後期	単位・時間	1 単位	30 時間		
援助が、その。 本授業を通 ① 健康レベル え、安全			動について健康の保持・ 、に役立つことを目指し して 、や食行動の自立度に原 で効果的な援助方法を のメカニズム、意義を野	、基本的な知識・技術 なじた食事・栄養摂り 習得する。	所を学ぶ。 取方法について看	護の視点から考		
① 健康レベルや食行動の自立度に応じた食事・栄養摂取方法にえることができる。 到達目標 ② 安全で効果的な食事の援助方法を習得し、活用できる。 ③ 排尿・排便のメカニズム、意義を説明できる。 ④ 健康レベルに合わせた排泄の援助方法を習得し、活用できる。					護の視点から考			
回数	単元	単元目標		授 業 内	容			
1		健康レベル	食事・栄養の意義					
2	食	栄養摂取方 法につい視点 看護の視点 からそで効果 的な援助方	食事に関する生理学的	]メカニズム、食事と	栄養に関する基礎	知識		
3	食事・労		栄養状態のアセスメン	ノト 食事摂取基準 ②	客観的指標 食事を	:阻害する要因		
4	木養の		食事・栄養に関する援助	力(1)経口栄養(咀収	咀嚼・嚥下・食行動制限)			
5	・栄養の援助技術		安全で効果的な援助方					
6	術							
7		法を習得する。						
8			排尿・排便の意義、解 排尿・排便のニーズのご					
9	排	排尿・排便 のメカニズ ム、意義を	0メカニズ 自然排尿・自然排便を促す方法					
10	排泄の援助技術	理解し、健 康的な生活 を送るため	床上での排尿・排便の援助 おむつを用いた援助 膀胱カテーテルを用いた援助					
11	技術	に必要な援	【演習③】床上排泄の接	動(尿器・便器・お	むつ)			
12		助方法を習 得する。	【演習④】導尿・膀胱	留置カテーテルを使用	した排泄の援助			
13			【演習⑤⑥】浣腸・陰部	 形洗浄・おむつ交換				
14	5	評価(2時間)						
		講義 演習						
評価		筆記試験 (100	%) 排泄(50%)					
『新体系 看護学全書 基礎看護学 2 基礎看 デキスト 『新体系 看護学全書 基礎看護学 3 基礎看 『看護技術 プラクティス』 学研メディカル		基礎看護技術Ⅱ』						
『看護栄養学』 医歯薬に   小松浩子・菱沼典子編   『看護形態機能学 生活			召典子編 『看護実践の	退拠を問う』 南江堂	 			

授業和	 斗目名	】     县-傑-青進			石黒 範子(看護師	,		
		1 年	前期		牧野かおる(看護師			
実施時期 1年 前期 単位・時間 1単位 日常生活行動について健康の保持・増進・回復との関連を確認し、活が、その人の健康に役立つことを目指し、基本的な知識・技術を学ぶ。 本授業を通して ① 人間にとっての活動・休息の意味を理解し、健康的な活動・休息の得する。 ② 人間にとって清潔の意味を理解し、健康的な清潔を整えるための扱			を確認し、活動・休息、清潔技術を学ぶ。	法を習				
① 人間にとっての活動・休息の意味を理解し、健康的な活動・休息のための援助方法 得し、活用できる。 ② 人間にとって清潔の意味を理解し、健康的な清潔を整えるための援助方法を習得し、 用できる。					法を習			
回数	単元	単元目標		授 業 内	容	担当		
1			活動と休息 人間と運動 人間	]と休息				
2	活	活 人間にとっての	活動のアセスメン	-				
3	動活動・休息の意	運動機能の維持、	能の維持、回復のための援助					
4	息の点	息の 康的な活動・休息のための援助 方法を習得す	【演習①】 活動:	ボディメカニクス・	体位変換	石黒		
5	援助 技		THE TANK					
6	術	る。	睡眠の意義・生理	1		1		
7			睡眠の障害とアセ 睡眠の援助	スメント				
8			清潔の意義、清潔	深援助方法の選択				
9			入浴、洗髪の意義	を援助方法				
10	清潔・衣	人間にとって清 潔・衣生活の意	【演習③④】 清	潔援助:洗髪				
12	生活の	味を理解し、健 康的な清潔・衣	手次 見次 口枕	ケアの意義と援助方	/ <del>/-</del> :	牧野		
	衣生活の援助技術	生活を整えるた めの援助方法を			云 :、寝衣交換の目的と援助方			
13	技術	習得する。	法					
14			【演習⑤⑥】 清潔	緊援助:全身清拭・	寝衣交換			
15	_	STOR ( a platti)						
1		評価(2時間)						
授業	形態	講義演習						
評価	方法	筆記試験(100%) 活動・休息(509	%) 清潔(50%)					
テキ	『新体系 看護学全書 基礎看護学2 基礎看護技術 I』 メヂカルフレンド社 デキスト 『新体系 看護学全書 基礎看護学3 基礎看護技術 II』 メヂカルフレンド社 『看護技術 プラクティス』 学研メディカル秀潤社							
参考図書 適宜紹介		適宜紹介						

授業科	4目名	基礎看護学	方法論V	担当教員名	尾野 あゆ	子(助産師)	
実施	時期	1 年	後期	単位・時間	1 単位	30 時間	
者に必要な技 授業の 概要と目的 ででである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 できる。 で。 できる。		者に必要な援助方法 本授業を通して ① 薬物療法の意義 ② 安全に与薬を行 ③ 薬物療法の具体	・目的および安全に与薬を行うシステムについて理解し、薬物療法を受ける患 生を学ぶ。また、検査時の看護者の役割を理解し、援助技術を学ぶ。 髪および薬物療法における看護の役割を理解する。 行なうシステムについて理解する。 は的な援助方法を理解し、習得する。 はび看護職者の役割を理解し、検査時の援助方法を習得する。				
到達	目標	<ol> <li>薬物療法の意義</li> <li>安全に与薬を行</li> <li>薬物療法の具体</li> <li>検査の意義およ</li> </ol>	なうシステムについ 的な援助方法を習	ハて説明できる。 得し、活用できる。			
回数	単元	単元目標		授 業	内 容		
1		薬物療法の意義・ 目的を理解し、安	薬物療法の理解、物療法に影響する	薬物療法の意義・目 5因子、処方箋	的、薬物の体内動態	点、薬物の作用、薬	
2		) - ++++ - /n ++1).	理	、薬物の管理、薬物 故防止対策、医療者			
3	与薬を安全かつ	の援助法	患者の援助、薬物の 八法、経皮的与薬法、		ト、一般的な与薬		
4			注射法の基礎知識 注射法とは、注射法における看護師の役割、注射法を受ける患者の援助				
5	つ正確に行う技術 薬物療法の具体的な援助方法を 理解し、習得する。		付け)				
6	術	る。	【演習①】点滴静脈内注射の準備、点滴刺入部の固定 輸液ポンプ操作				
7			注射法の種類別援助方法と技術② 注射器への薬液の重墳 皮内注射 皮下注射 筋肉内注射				
8			【演習②】注射器	の無菌操作 薬液の	吸い上げ		
9			皮内注射・皮下注	射・筋肉内注射の方	法(部位選定と刺	入方法)	
10			【演習③】皮下注	射 筋肉内注射(モ	デル人形使用)		
11	検査	検査の意義・目的	検査の意義、検査を 体計測	こおける看護師の役	割、検査の種類と写	<b>実施時の注意点、身</b>	
12	検査を安全かって	を理解し、看護師 の役割・検査時の 援助方法を習得		B音波検査、CT検査、 刺法	内視鏡検査、心電	図、尿・便・喀痰	
13	行う技術で正確に	する。	【演習④5】				
14	114		身体計測 静脈	採血 ————————————————————————————————————			
1.		評価(2時間)					
	授業形態 講義 演習			: (200/)			
評価方法 筆記試験 (80%) 『新体系 看護学全 テキスト 『新体系 看護学全 『看護技術 プラクラ			書 基礎看護学2 書 基礎看護学3	基礎看護技術Ⅰ』 基礎看護技術Ⅱ』		·	
参考	 図書	写真でわかる基礎を 写真でわかる基礎を					

授業科	·目名	基礎看護	学方法論VI	担当教員名	石黒 範子 外 部 講 師 外 部 講 師	(看護師) (看護師 (看護師	)
実施	寺 期	2 年	前期	単位・時間	1 単位	30 時間	
呼吸・循環・体温を整える技術、皮膚・創傷を管理する技術、救急看護に必要な診療に伴う援助技術を学ぶ。本授業を通して ①呼吸・循環・体温状態に応じた援助技術を習得する。 ②皮膚・創傷の処置を必要とする対象の状態を理解し、創傷の状態に応じた援助技術する。 ③救急看護に必要な知識を習得する。					技術を習得		
到達目標	票	②皮膚・創傷の て説明できる	処置を必要とする対	対象の状態を理解	<b>足し、創傷の状態に応じ</b>		
回数	単元	単元目標		授業内	內 容		担当
1			痰を喀出させる	法(呼吸の楽な	体位 安楽な呼吸法)		
2			吸入の基礎知識 吸入の原理・目的、吸入による身体の影響と方法の選択 ネブライザーによる薬液吸入 酸素吸入				
3	· 呼 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	吸引の基礎知識 吸引の意義、吸引部位と目的による身体の影響と方法の選択 吸引に関するアセスメント					
4	循環・体	呼吸・循環 体温の異常に	気道分泌物の排出の援助 一時的気道内吸引 体位ドレナージ スクイージング				石黒
5 6	温を整える	応じた援助技 術を習得 する。	【演習①】 ネブライザー吸入 酸素吸入 一時的気道内吸引 (口腔 ・ 鼻腔・気管内)				
7	技術	技術 末梢循環促進の援助 体温管理・保温の援助 番法の目的・定義、温度刺激の生体におよぼす影響 電法の効果と種類およびアセスメント 電法の援助方法(冷罨法 温罨法)				響	
8			【演習②】 冷罨法(氷枕	Z) 温罨法(湯Z	たんぽ)		
9	皮	<b>中唐</b> かたっ	皮膚・創傷を管	ぎ理する技術 皮	膚障害の種類 褥瘡		
10	膚・創	皮膚・創傷の処理を必要と	創傷治癒の基本過去法婦助方法の				外部講師
11	傷を管理	する対象の状態を理解し、 創傷の状態に	換				
12	創傷を管理する技術	応じた援助技 術を習得 す る。	【演習③】 包帯法(巻軸	包帯、布帕包帯	を用いた方法)		石黒

13	必救	救急看護に必	救急時における迅速な介入の必要性 一次救命処置と二次救命処置 気道確保 胸骨圧迫 人工						
14	急看護	急看護	要な技	必要な技教急看護	急看業	要な知識を習得する。	急を変える。要な知識を習	呼吸 除細動、AED 救急カート M E機器(輸液ポンプ シリンジポンプ)	外部講師
15	技能	14 ) .00	【演習④】 一次救命処置						
16	3	評価(2時間)							
授業形	形態	講義演習							
評価決	形態	皮膚・創傷を	%) 体温を整える技術(60%) で管理する技術(20%) 要な技術(20%)						
テキン	テキスト 『新体系 看護学会		全書 基礎看護学 2 基礎看護技術 I 』メヂカルフレンド社 全書 基礎看護学 3 基礎看護技術 II 』メヂカルフレンド社 クティス』 学研メディカル秀潤社						
参考	 図書	『基礎看護学 考える基礎看護技術 I 看護技術の基本』ヌーヴェルヒロカワ							

授業和	科目名	基礎看護学	方法論Ⅶ	担当教員名	牧野 かおる (看護師)				
実施	時期	1年	後期	単位・時間	1 単位	30 時間			
看護実践に必要な看護過程の概要とその実践について理解し、対象を表現を表現を表現を表現して、では、では、では、対象を表現を表現して、では、では、では、では、対象を表現を表現を表現して、では、では、では、では、では、では、では、では、対象を表現を表現して、では、では、対象を表現して、では、では、では、対象を表現して、では、では、対象を表現して、では、対象を表現して、対象を表現して、対象を表現し、を表現し、対象に対象を表現し、対象を表現し、対象に対象を表現し、対象を表し、対象を表現り、対象を表現し、表現し、対象を表現り、と、表現り、対象を表現り、と、対象を表現り、と、表現り、と、表現り、対象を表現り、と、表現り、と、まれり、と、まれり、と、まれり、と、と、と、と、と、と、と、と、まし		法について理解	する。						
到達	<b>達目標</b>	①看護を科学的に展開するための思考のプロセスや方法について説明できる。 ②看護過程という問題解決技術を活用し、事例の展開ができる。							
回数	単元	単元目標		授業	内 容				
1			看護過程 (看護 アセスメント ゴードンの機能的	(アセスメントと					
2	看誰	看護	クリティカルシン 情報の分析、解釈 看護診断		ティカルシンキ	・ングとは)			
3	6の過程の			看護問題 (看護問題とは、看護問題の種類、看護問題の表現、看護問題の優先順位)					
4	概要		看護計画立案 (看護計画の立案とは、目標の設定) 具体的な活動計画(具体策)の立案 実施						
5			評価 (評価とは 看護記録 (PO 看護要約(看護サ	S:問題志向型					
6			演習 事例:消化器症	定状をもつ患者					
7 8 9	看護の過程	看護の過程を具体的に用者。経験	ゴードンの機能傾 情報のアセスメン		いて情報整理				
10	過程の展開	体的に思考・経験 し、看護過程とい う問題解決技術 を理解する。	統合全体像(全体関連図 全体像の成分化) 患者の強み 長期看護目標の設定						
12			看護問題の設定						
13			看護計画(短期目	目標・具体的な看	護活動)の立案	:			
14			実施・評価(SOAI	P)					
1	15	評価(2時間)							
授業	形態	講義 演習							
評価	方法	筆記試験 (80%)	レポート (20%)						
『新体系 看護学全書 基 テキスト 渡邊トシ子編 『ヘンダー			全書 基礎看護学 2 ンダーソン・ゴート	2 基礎看護技術 ジンの考えに基づ	く実践看護アセス	プレンド社 スメント』 -ルヒロカワ			
参考	図書	適宜紹介							

授業和	斗目名	臨床看	護総論 I	担当教員名		子(助産師 ・ (看護師)	·			
実施	時期	2 年	前 期		1 単位	30 馬	排間			
<ul> <li>健康障害をもつ対象を理解し、主要症状・治療処置別などの状態に応じて複数の看護適用する基礎を学ぶ。本授業を通して</li> <li>① 看護の基盤は実践であることを理解し、専門職として対象に向き合うことに伴う看割、責任について理解する。</li> <li>② 発達段階から各期の特徴を理解し、対象の健康レベルの変化に即した看護の視点をでする。</li> <li>③ 健康障害時の主要症状の病態生理やメカニズムを理解し、症状の観察方法と看護する。</li> <li>④ 治療・処置を受ける対象者への観察方法と看護を理解する。</li> <li>① 発達段階と発達課題および健康問題を通して、各期の特徴を説明できる。</li> <li>② 発達段階と健康レベルに共通した看護の視点を明らかにできる。</li> <li>③ 健康障害時の主要症状の病態生理やメカニズムを理解し、症状の観察方法と看護で説明できる。</li> </ul>				i護の役 を明らか を理解						
回数	単元	(4) 治療・処置を受 単元目標	ける対象者への観察	方法と看護につい 授 業 内			担当			
	平兀	専門職として、対		(文 来 円	谷		担ヨ			
1	福末	象に向き合うことに伴う看護の役	臨床看護とは							
2	臨床看護の概論	割・責任、看護の対象の理解 対象者を理解する 対象者を理解する が思期(乳児期 幼児期 学童期 思春期)								
3	結論	ための基盤を学 び、健康上のニー ズを理解する。	- プログログス -				- 橋本			
4	裕	健康状態の経過 (急性期・回復	疾病の経過と看護 急性期(周手術期)	にある対象者の特征	数、ニーズ、看護	の基礎	们间/十			
5	経過別看護	ビリテーション 期・終末期) に基	ョン 回復期・慢性期・リハビリテーション期にある対象者の特徴、 に基 ニーズ、看護の基礎							
6	補	づく看護を理解する。	疾病の経過と看護 終末期にある対象:	者の特徴、ニーズ、	看護の基礎					
7			呼吸障害のメカニズム 基本的な看護援助	ム、観察とアセスメ	ントの視点、					
8	症状织	代表的な症状に ついて、症状のメ カニズム・アセス	基本的な看護援助	間でいる。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、						
9	症狀別看護	メントの視点と看 護援助の根拠を 理解する。	栄養代謝障害のメカン 基本的な看護援助	ニズム、観察とアセ	アスメントの視点、					
10		11/1/00	排泄障害のメカニズム 基本的な看護援助	ム、観察とアセスメ	ントの視点、					
11			治療・処置を受ける対 薬物療法を受ける				尾野			
12	治涛	代表的な治療に ついて、その特徴	放射線療法を受け	る対象者への看護	在					
13	治療処置別看護	と治療に伴う観察・アセスメント・	手術療法、集中治	療を受ける対象者	への看護					
14	看護	看護について理 解する。	創傷処置を受ける 身体侵襲を伴う検		対象者への看護					
15			緩和医療							
1	6	評価(2時間)								

授業形態	講義 演習
評価方法	筆記試験 (100%)
テキスト	『系統看護学講座 専門分野 臨床看護総論』医学書院
参考図書	『ナーシング・グラフィカ 基礎看護学 基礎看護技術』メディカ出版 『看護技術 プラクティス』学研メディカル秀潤社

授業和	科目名	臨床看記	獲総論Ⅱ	担当教員名	尾野 あゆ子(助産師)		
実施	時期	2年	2年 前期 単位・時間 1単位 15 時			15 時間	
授業の概要と	看護の基礎的知識や技術が実践の中でどのように統合されているか学んだ上で、応月養うために、事例を通してどのように看護を行うかを学ぶ。また、患者教育の在り方につい 学ぶ。 本授業を通して ①セルフケア教育における看護師の役割と指導・教育の方法について理解する。 ②事例を通して情報集収集から評価まで看護過程を展開し、対象にあった援助方法を習る。					在り方についても	
到達	目標		における看護師の役 して患者の看護を総	は割と指導・教育の方法 合的に展開できる。	<b>去について説明て</b>	<b>ごきる</b> 。	
回数	単元	単元目標		授業内	] 容		
1	教育指導技術	セルフケア教育 における看護師 の役割と指導・	セルフケア教育の意				
2	導技術	教育の方法を理解する。	指導教育の場、形態、教材、指導案の基礎				
3			演習 事例 情報の整理 全体像の把握 看護上の問題 目標の設定 看護計画の立				
4	事例展開	模擬事例を用い て情報収集から 評価までの看護	【演習①②】 事例をもとに対:	象にあった指導と実技	<b>支演習</b>		
5	開	の過程について 習得する。	記録と評価				
6			【演習③④】 事例をもとに対象にあった指導と実技演習				
7			記録と評価				
8			要約の書き方				
	9	評価(1 時間)					
授業	美形態	講義 演習					
評価	5方法	筆記試験(30%)	レポート(70%)				
テキ	・スト		事門分野 臨床看記 全書 基礎看護学 2 基	獲総論』医学書院 基礎看護技術Ⅰ』メチ	ヴカルフレンド社		
参考	≶図書	_	フィカ 基礎看護学 夏ティス』学研メディカ	基礎看護技術』メディ ル秀潤社	7カ出版		

授業	科目名	地域・在宅	三看護論概論 I	担当教員名	旦当教員名 石黒範子(看護師)		
実施	時期	1年	後期	単位・時間	1 単位	15 時間	
	を目的 幸目標	高齢社会が進む中、自立した生活を送る高齢者も多い。地域で自立した生活を送る高齢者と交流することで、生活の中にある健康を維持するための看護の基本技術を学ぶ。本授業を通して ① 地域生活の中に実践されている看護を理解する。 ② 自立した高齢者の特徴を説明できる。 ② 自立した高齢者の特徴を説明できる。					
1-17	土口尔	<ul><li>③ 住民の健康を守</li><li>④ 多様な生活の場</li></ul>	『る支援について説明』 景を説明できる。	できる。			
回数	単元	単元目標		授業	为 容		
1			地域の特徴を知る 人口動態 生活環境	竞			
2	地域	地域の特徴を 説明できる	市内散策・フィー	ルド調査			
3	の 特 徴		市内散策・フィールド調査後の地図作り				
4							
5	住民のは	自立した高齢者	住民の健康を守る支持定健診・保健指	Rの健康を守る支援 特定健診・保健指導・健康教育			
6	の健康を守る支援	の特徴を知り、健 康を守る支援に ついて説明でき	介護予防教室 レクリエーション活動 サークル活動への参加				
7	る支援	3	多様な生活の場 サービス付き高齢者向け住宅 生活支援ハウス				
	8	評価(1時間)					
授美	業形態	講義 演習					
評价	西方法	筆記試験 (50%)	レポート (50%)				
テキ	キスト	『新体系 看護学会	と書 地域・在宅看護論	副 メヂカルフし	ンンド社		
参	考図書	各自治体のホーム	ページ				

授業科	斗目名	地域・在宅看	護論概論Ⅱ	担当教員名	外部講師	(看護師)		
実施	時期	2 年	前期	単位・時間	1 単位	30 時間		
授業の概要と	∶目的	方を追求する。 本授業を通して ① 地域・在宅看護	を提供する場を知 社の活動における	、個々の生活条件の の、看護の特徴を理り 地域・在宅看護の意	解する。			
到達	目標	<ul><li>② 看護をめぐる諸域看護活動の</li><li>③ 地域・在宅看護</li><li>④ 地域・在宅看護</li></ul>	情勢の変化を学び 概要と在宅看護と における看護の特征 の関連専門職種と	或・在宅看護の特徴 、潜在・顕在する地の関連を説明できる 数、継続看護につい 主な役割について説 家族への援助の方法	地域の人々の健康問る。 て説明できる。 は明できる。	-		
回数	単元	単元目標		授業	内 容			
1			地域の特性					
2	地	116 1-1 0 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	療養者と地域環境	Ĵ				
3	地域・在		人口・世帯に関する動向					
4	宅看	たシステムや地域	地域・在宅看護の定義と位置づけ					
5	在宅看護の基盤	(と) 生件する。	地域・在宅看護の	変遷				
6	盤		地域・在宅看護の動向					
7			在宅療養における人権の尊重と権利性					
8	を地支域	在宅看護の特徴、	地域・在宅看護に関する制度					
9	えるし	在宅看護の特徴、 関連する法規や 機関・専門職の役 割を理解する。	地域包括システム					
10	うくみ護	割を理解する。	訪問看護の制度と機能					
11			在宅看護過程					
12	地域・	家族の機能を理	地域・在宅看護の	対象となる個人の特	性			
13	· 在宅看護(	解し療養者とその 家族への援助の	家族の定義・機能・発達段階					
14	援養の	方法を理解する。	療養者と家族に対	する援助の過程				
15			継続看護の機能と	効果				
10	6	評価 (2時間)						
授業	形態	講義						
評価	方法	筆記試験 (100%)						
テキ	スト	『新体系 看護学全 『国民衛生の動向』		<b>養論』メヂカルフレ</b>	 ンド社			
参考	図書	適宜紹介						

授業科	斗目名	地域・在宅看記	護論方法語	侖 I	担当教員名	若林理恵子(看護師)		
実施	時期	2 年	前	期	単位・時間	1 単位	15 時間	
授業の概要と		在宅で療養する。 常生活行動に対す 本授業を通して ① 在宅療養者の自	る援助の	基本技術			環境を生かした日	
到達	目標	<ol> <li>在宅で療養する</li> <li>在宅看護におけ</li> </ol>			ŭ	かの具体的方法を説	<b></b>	
回数	単元	単元目標			授	業 内 容		
1				在宅看該	護援助の基本 対象	き者の生活 生活様	式と価値観	
2					よ援助内容 在宅に	おける面接技術		
3	在宅	護解し、在宅看護におけ		具体的危	な援助内容 食生活			
4	看護援品		在宅で療養する意味を理解し、在宅看護における日	おける日	具体的な援助内容 排泄			
5	助の基本技術	常生活行動に対すの具体的方法を説						
6	技術	る。 -		具体的な援助内容 住居 活動・睡眠 リハビリテーション				
7				演習 日常生活動作に対する援助				
8				事例に基づく援助計画立案、実施、評価				
(	9	評価(1時間)						
授業	形態	講義 演習						
評価	方法	筆記試験 (80%)	レポート	(20%)				
テキ	スト	『新体系 看護学全	書 地域	• 在宅看該	養論』メヂカルフ l	ンンド社		
参考	参考図書 適宜紹介							

授業和	斗目名	地域・在宅看記	<b>養論方法</b>	論Ⅱ	担当教員名	外部講師(看讀 石黒 範子(看		)
実施	時期	2 年	前	期	単位・時間	1 単位	30	時間
授業の概要と	上目的	本授業を通し ① 在宅療養にお ① 在宅療養者に る。	て ける技術 多い疾患	の応用や	P医療技術を理解す 賃害を理解し、在宅	で求められる技術の応り		説明でき
回数	単元	単元目標	<b></b>	-		方法を説明できる。 		担当
1				エンド・	オブ・ライフケア			
2	地域			難病ケス	7			
3	在宅看	・在宅療養者に多い疾患・機能障害を理解し、 在宅で求められる技術の応用を説明できる。	慢性疾病	<b>患管理</b>				
4	- 護 在宅で求められる技術 生活不活発病予防 健 の応用を説明できる。				石黒			
5	康障害			認知症ケア				
6	·			介護予防	方			
7			地域看護における訪問看護					
8				在宅酸素療法と看護				外部講師
9	地域:			経管栄養法と看護				
10	在宅看	在宅看護におい	て医療	在宅における疼痛管理 緊急時のケア 褥瘡管理				
11	在宅看護の援助技術	依存度の高い類の健康管理方法		導尿・膀胱留置カテーテルと看護 ストーマと看護				
12	助技術	明できる。		在宅中心	心静脈栄養法と看護			
13	· 技法			腹膜透	折療法と看護			石黒
14			_	在宅人	Ľ呼吸療法・NPP`	V		
15				在宅人工呼吸療法・TPPV				
1	6	評価(2時間)						
授業形態 講義								
評価	方法	筆記試験(100%)						
テキ	スト	『新体系 看護学会	企書 地域	战・在宅ネ	<b>賃護論』メヂカル</b> フ	レンド社		
参考	図書	適宜紹介						

授業和	斗目名	地域・在宅看記	<b>嬳論</b> 方法	論Ⅲ	担当教員名	石黒 範子	(看護師)
実施	時期	2 年	後期		単位・時間	1 単位	15 時間
授業の概要と		本授業を通し	7	解し、看護過程の展開について事例とともに学ぶ。 足えた看護過程を理解する。			
到達	目標		<ul><li>① 在宅看護の特徴を説明できる。</li><li>② ロールプレイングにより看護の実際をイメージできる。</li></ul>				
回数	単元	単元目標			授	業 内 容	
1		在 宅 看 護 の 在宅看護の特徴を捉 展 えた看護過程を説明で		在宅看記	護過程の特徴		
2				事例による看護過程の展開			
3	在			情報 (11の機能的健康パターンを用いて) のアセスメント			
4	宅   宅看:			援助の方向性 療養者の全体像 療養者の持つ強み 長期目標			
5		えた看護過程を記さる。	説明で	訪問看護計画の立案 看護上の問題			
6	の基本技術		期待される結果(短期目標) 期待される結果(短期目標)を達成するための具体的な活動計画 の立案				
7			-	**************************************		17)-# N. N. 150	71
8				<b>)</b> ( )	ユールテレインク	計画に基づいた援助	叨
(	)	評価(1時間)					
授業	形態	講義 演習					
評価	方法	レポート (100%)					
テキ	スト	『新体系 看護学会	全書 地塚	 戊・在宅ネ	<b>看護論』メヂカルフ</b>	レンド社	
参考	図書	適宜紹介					

授業	科目名	地域・在宅	看護論方法論IV	石黒 範子(看護語 全者 一方法論IV 担当教員名 外部講師(地域連 田中 勝(理学療 外部講師(介護福		連携室担当者) 療法士)
実施	時期	2 年	後期	単位・時間数	1 単位	15 時間
授業の 概要	地域の暮らしを支える職種は多様でそれぞれの役割がある。連携することで、質 業の 概要と目的 本授業を通して 対象を支援する職種の役割を理解し連携の方法を理解する。 ① 多職種の連携の意義・方法を説明できる。					
到這	<b>達目標</b>	② 地域連携室の役		-	を説明できる。	
回数	単元	単元目標	授	業 内 容		担当
1	地域連		多職種連携の意義・	目的		石黒
2	地域連携室・各職種	地域医療連携室や各職種の役割を理解する。	地域医療連携室の役	割 療養移行支	援	荻野
3	職種の		で各職種の役割 職 種 を理解する。 理学療法士の役割			
4	の役割		介護福祉士の役割	<b>養福祉士の役割</b>		
5			演習の事前学習			
6	多職種連携の実際	事例検討を通し て多職種連携の	演習 事例に基づく援助計画立案			石黒
7	の実際	実際を理解する。				
8			演習のふり返り			
Ć	9	評価(1時間)				
授業	类形態	講義 演習				
評価	評価方法 筆記試験(50%) レポート(50%)					
テキ	テスト	『新体系 看護学全	き書 地域・在宅看護論	鸙』 メヂカルフ	レンド社	
参考	<b>美図書</b>	適宜紹介				

授業和	斗目名	成人看護学	概論	担当教員名	浄聖 陽子	(看護師)
実施	時期	1 年	後期	単位・時間	1 単位	30 時間
成人期の身体的・精神的・社会的特徴を学び、現代の成人に生し題の予防と回復に向けての成人看護学の理念・目的・方法について成人期の健康問題を多角的にとらえる視点を学び、成人の生活や生でいて理解する。健康状態や健康問題に対応するための看護アプロを表して、 一成人期にある人の特徴をふまえた成人看護学の理念、目的、方法は②成人期にある人の身体的・心理的・社会的特徴および発達課題を発して、②成人期にある対象の身体的・精神的・社会的側面と特徴を述べることが				が法について理解 の生活や生きで の看護アプローで 目的、方法につ	解する。また、 方、健康問題に チの基本的な考 いて理解する。	
到達	目標	① 成人期にある対象の身② 成人の健康の現状や動③ 成人の健康な生活を終る。	姉について述べる	ことができる。		
回数	単元	単元目標		授業	内 容	
1	. 成	成人期の対象やその	成人看護学の概念	念と構成		
2	成人期の人看護学の	特徴を理解し、成人 看護学の特性、保健・ 医療・福祉における	成人期にある人の	の特徴		
3	の理解字の概念	期門と硃越、有護の	成人の生活と健康	隶		
4	71 念		成人に特有な健康	康問題の特徴		
5	成	成人の特性や能力に	成人の学習の特征	徴と看護アプロ-	ーチ	
6	人への	応じたアプローチに	看護実践におけ	ス倫理的判断		
7	の看護な	ついて理解する。	意思決定支援•			
8	本アプロ	成人期にある人を看	成人期に関わる	社会のシステム		
10	ーチの	護するための基本的 なシステムについて 学ぶ。	ヘルスプロモーション			
11		健康の定義を理解し、	急激か身体侵襲	により急性期に	ある対象の看護	
12	成人	健康レベルに応じた 対象の看護援助につい	急激な身体侵襲により急性期にある対象の看護 障害への適応と社会復帰への看護 慢性的な経過をたどる健康障害への看護 人生の終焉期の看護			
13	人期にある	て理解する。				
14	る人の	継続看護と健康教育 について理解し、対 象のとらえ方や看護 援助について学ぶ。	継続看護の重要 他職種との連			
1	5	評価 (2 時間)				
授業	形態	講義 演習				
評価	方法	筆記試験 (100%)				
テキ	スト	『系統看護学講座 専門 『国民衛生の動向』厚生		—————————————————————————————————————		
参考	図書	適宜紹介				

授業和	科目名	成人看護学	生方法論 I	担当教員名	海聖 陽子(看護師) 外部講師(看護師)		
実施	時期	2 年	前期	単位・時間	1 単位	30 🖡	寺間
授業の概要と		を学ぶ。周手術期看主体的に治療過程に接助を学ぶ。 本授業を通して、 ①成人の急性期に と各機能ティカルな状解し、必要な看護の特性 ②クリ、必要な看護の特性 ②周手術期の患者の ③麻酔・手術に伴う とができる。	Eと患者の特徴、看護について述べることができる。 の特徴と看護について述べることができる。 5 生体への侵襲を学び、早期回復のための看護の役割について述べるこ 計護の特徴を述べることができる。				
回数	単元	単元目標		授業内	容		担当
2	急性看護の概念	急性期看護の概念を 理解し、急性期特有 の看護活動について 理解する。	急性期看護の考えて 急性期にある人の 急性期にある人々く	特徴と理解			
3	クリティカルケア	クリティカルケアの 概念、特徴をふまえ た看護を理解する。	クリティカルケアを クリティカルケア			看護	
4	救急看護の	救急看護の概念、特 徴をふまえた看護を 理解する。	救急看護を受ける患者の特徴と理解 救急看護を受ける患者への看護 救急患者のアセスメント				
5	周手術期看護	周手術期看護の考え方 を理解し、特徴をとらえ た看護援助を行う。	周手術期看護の考え 周手術期にある人の				浄聖
6			周手術過程に応じた 術前の看護	に看護			
7	周	周手術過程の特徴をふまえ、術	術中の看護				
8			術後の看護				
9	護の実際	看護について理 解する。					
10			術後合併症とその言	予防のための看護			
11			術後の継続看護				

12			術式による特徴的な手術看護 開頭術を受ける人の看護	
13	術式による手術看護を 理解する。		開胸術を受ける人の看護	外部
14		2±7+7°20	開腹手術を受ける人の看護	講師
15			腹腔鏡下手術の看護・日帰り手術の看護	
1	16	評価(2時間)		
授業	能能	講義		
評価	評価方法 筆記試験 (100%) 急性期・周手術期 (70%) 術式による手術看護 (30%)			
テキ	テキスト 『周手術期看護論』ヌーヴェルヒロカワ 『系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論』医学書院			
参考	図書	適宜紹介		

授業科	斗目名	成人看護学方法	 法論Ⅱ	担当教員名	若林理恵子	- (看護師)	
実施問	時期	2 年	前期	単位・時間	1 単位	30 時間	
授業の概要と	目的	主に慢性の経過をたどる疾患を持つ患者への看護を学ぶ。特に生活習慣に関連した健康障害、生活に関連したセルフケアの獲得に向けた援助を中心に学ぶ。本授業を通して、 ① 慢性期にある成人の対象の特徴を理解する。 ② 障害による生命・生活への影響と機能障害に応じた看護を学ぶ。 ① 慢性的・長期的な経過をたどり、生活習慣の再構築が必要な患者の看護について述べることができる。 ② 慢性的な健康障害のセルフケア獲得に向けた看護について述べることができる。					
回数	単元	単元目標		授業	内 容		
1 2	慢性期看護 の概念	慢性期看護の概念お よび慢性期にある人と 看護援助を理解する。	慢性期看護の考 慢性期にある <i>」</i> 慢性期にある人	人の特徴と理解			
3			呼吸機能障害の	ある患者の看護			
4		循環機能障害の	ある患者の看護				
5	慢性级	<b>適</b>					
6	矣患に関		栄養摂取・消化	機能障害のある患	者の看護		
7	<b>曼性疾患に関連したセルフ</b>	機能障害や障害に伴う苦痛症状を病態生	肝機能障害のあ	る患者の看護			
9	, 7	理を踏まえて理解する。また、機能障害が 患者におよぼす影響 を理解し、セルフケア	糖代謝障害のある患者の看護				
10	导が必要で	獲得に向けた看護援助について理解する。	造血機能障害を	能障害をもつ患者の看護			
11	ケア獲得が必要な患者の看護		腎機能障害のあ	る患者の看護			
13			運動機能障害を	もつ患者の看護			
14			脳・神経機能障	害をもつ患者の看	<del></del> 護		
1	5	評価 (2時間)					
授業	形態	講義 演習					
評価	方法	筆記試験(100%)					
テキ	スト	『系統看護学講座 専門	引分野 成人看護	学②~⑩』 医学	事院		
参考	図書	『成人看護学 慢性期看記	 護論』 ヌーヴェ/	レヒロカワ			

授業	受業科目名    成人看護学方法		<b>≱</b> 方法論Ⅲ	担当教員名	外部講師(看記 外部講師(看記 外部講師(看記 外部講師(看記	護師) 護師)	
実施	時期	2 年 前 期 単位・時間 1 単位 15 時				15 時間	
	成人で心身の機能・構造に何らかの障害があり、日々の生活や社会生活に支障をた人とその家族が、障害をかかえながら生活を再構築していくための看護について本授業を通して、 ①機能訓練等によって疾患の回復を促進し、生活を再構築するための看護の役割て学ぶ。			こついて学ぶ。			
到這	<b>差</b> 目標		、回復と自立を支 <i>え</i> 『を抱えながら生活を			-	
回数	単元	単元目標		授 業 内	容	担当	
2			呼吸機能障害のある事例を用いたグ		立に向けた看護	外部講師	
3	障		循環機能障害のある患者の回復と自立に向けた 事例を用いたグループワーク				
4	きを物		4 M 5 M 4 C 7 M 7 D 7				
5	障害を抱えながら生活を再構築	機能障害が患者におよぼす影響を理解し、回復と自立	脳・神経機能障害の 観察とアセスメ 髄液検査時の援助			護 外部	
6	再構築するための看護	に向けた看護につ いて学ぶ。	認知機能障害・コミ 意識障害・高次脳構 向けた看護 事例を用いたグノ	幾能障害・失語症を		講師 講師	
7	看護	運動機能障害をもつ患者の回復と自立に向けた看 脊髄損傷を負った人の看護 下肢切断を余儀なくされた患者の看護				外部講師	
8		パーキンソン病患者の看護 感覚器機能障害患者の回復と自立に向けた看護 視覚障害 聴覚障害 味覚・嗅覚障害					
	9 評価(1時間)						
授業形態 講義 演習							
評価方法			5%)				
テキ	テスト	『成人看護学 リハ	ビリテーション看護	論』ヌーヴェルヒ	ロカワ		
参考	<b>美図書</b>	『成人看護学 慢性	期看護論』ヌーヴェ	ルヒロカワ 他、	適宜紹介		

授業の概要			後期	単位・時間	外部講師		
				2 年 後期 単位・時間 1 単位 30 甲			盯
至	達目標	放射線療法や化学療法など、がん患者への看護について学ぶ。人生の終身体的・精神的・社会的苦痛の緩和や、ともに生活する家族への支援を発生を通して、 ①人生の終焉にある患者の各種症状とその治療や対処療法を学び、看護際を理解する。 ②我が国の死因順位第一位のがんについて、現状と問題、がん治療と看護にする。 ①人生の終焉における医療の現状および看護の役割について述べることがつきる。 ②がん患者の現状と問題から、がん看護の役割について述べることができる。 ③がん患者の現状と問題から、がん看護の役割について述べることができる。			髪を学ぶ。 看護の役 護について とができる。 て述べるこ	割と理解	
回数	単元	④がん治療におけん 単元目標	る看護師の役割と	看護の実際について 授業内	「述べることがで 容	できる。	担当
1 2 3	単 生終にける看 生終にける看	単元日標 人生の終焉の対象やその特徴を理解し、ターミナル期看護の特性・倫理的課題を理解する。	人生の終焉におり 人生の終焉とり 死をめぐる倫理	ける看護の考え方 は	<b>台</b>		<u>担目</u>
4			人生の終焉にある	うる患者・家族の特徴と理解			
5 6 7	人生の終焉にある人	人生の終焉にあ る人の状態の 化を理解しケア の実際を学ぶ。	心理的支援の方法 家族・遺族ケアの 医療従事者のス				講師
8	への看護援助	の大体でする。	コミュニケーシ	る薬剤の活用とその ョン技術とコミュ: /ョンについてのロ	ニケーションの		
10	がん看護	がん患者の現状と問 題から、がん看護の役 割について理解する。	がん患者の現状と	<b>二特</b> 徴			
11	放線治療 関と看護	放射線治療における看護師の役割と 看護の実際を学ぶ。	精神面への援		<b>—————</b>		外部講師
13	化学療法と看護	化学療法における 看護師の役割と看 護の実際を学ぶ。	化学療法を受ける 心身の準備 高 早期発見・対 自己対処法の打 心理的支援	る患者の看護 削作用の予防 処	ix		

15	がん治療	がん治療における 看護師の役割と看 護の実際を学ぶ。	看護師の役割と看   一件のおり   2000   20			
	16	評価(2時間)				
授	受業形態	講義				
評価方法筆記試験 (100%) 人生の終焉にある人への看護 (50%)がん看護 (50%)						
テキスト 『成人看護学 緩和・ターミナルケア看護論』ヌーヴェルヒロカワ						
参考図書 適宜紹介						

実施時期   2 年   前 期   単立・時間   1 単位   30 時間   接換   放入期における効果的な指導技術や看護問題の解決プロセスを理解する。成人の特徴を表示を活動過程を提開し、その学でを踏地実習につなげる。	授業和	科目名	成人看護学方	法論V	担当教員名	浄聖 陽子	(看護師)
接業の 概要と目的	実施	時期	2 年	前期	単位・時間	1 単位	30 時間
到達目標   ② 看護問題の解決プロセスを理解し、指導場面の看護過程を展開することができる。   ③ 健康常春を持つ成人の看護過程を展開することができる。   回数 単元 単元目標 授業内 容	授業の 概要と目的 踏まえた看護過程を展開し、その学びを臨地実習につなげる。 本授業を通して、 ① 看護における指導の考え方と効果的な指導技術について学ぶ。						
1	到達	目標	② 看護問題の解決プロー	セスを理解し、指	導場面の看護過程	を展開することが	<b>ぶできる。</b>
2	回数	単元	単元目標		授業	内 容	
2	1						
指導媒体を作成(グループワーク)  指導媒体の作成についての発表  「成人期における看護の展開」 情報の整理、アセスメント 看護過程の展開(個人ワーク)  成人看護過程を展開し、臨地実習につなげる。  「成人期における看護の展開(個人ワーク)  統合全体像、関連図 看護上の問題の明確化 看護過程の展開(個人ワーク)  長期目標 短期目標の設定 具体的な活動(具体策) 看護過程の展開(個人ワーク)  「大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大	2	健康		長期にわたり自	己管理を要する対象		
指導媒体を作成(グループワーク)  指導媒体の作成についての発表  「成人期における看護の展開」 情報の整理、アセスメント 看護過程の展開(個人ワーク)  成人看護過程を展開し、臨地実習につなげる。  「成人期における看護の展開(個人ワーク)  統合全体像、関連図 看護上の問題の明確化 看護過程の展開(個人ワーク)  長期目標 短期目標の設定 具体的な活動(具体策) 看護過程の展開(個人ワーク)  「大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大	3	<b>歴学習を支</b>	看護における指導の	指導計画につ 指導計画の作	いての学習		
指導媒体を作成(グループワーク)  指導媒体の作成についての発表  「成人期における看護の展開」 情報の整理、アセスメント 看護過程の展開(個人ワーク)  成人看護過程を展開し、臨地実習につなげる。  「成人期における看護の展開(個人ワーク)  統合全体像、関連図 看護上の問題の明確化 看護過程の展開(個人ワーク)  長期目標 短期目標の設定 具体的な活動(具体策) 看護過程の展開(個人ワーク)  「大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大	4	援し成長	考え方と効果的な指 導技術について理解		成(グループワー	<i>ク</i> )	
7	5	を促す技術		評価のプロセ 評価の方法		ク)	
10	6			指導媒体の作成	についての発表		
10   成人の特性をふまえ   た看護過程を展開し、 臨地実習につなげる。				情報の整理、ア	ヤスメント		
12   長期目標 短期目標の設定 具体的な活動 (具体策) 看護過程の展開 (個人ワーク)   14   15   評価 (2時間)   接業形態   講義 演習   評価方法   筆記試験 (50%) レポート (50%)   テキスト   資料配布	9	成		<b> </b>	即車図		
12   長期目標 短期目標の設定 具体的な活動 (具体策) 看護過程の展開 (個人ワーク)   14   15   評価 (2時間)   接業形態   講義 演習   評価方法   筆記試験 (50%) レポート (50%)   テキスト   資料配布	10	人看護		看護上の問題	の明確化		
12   長期目標 短期目標の設定 具体的な活動 (具体策) 看護過程の展開 (個人ワーク)   14   15   評価 (2時間)   接業形態   講義 演習   評価方法   筆記試験 (50%) レポート (50%)   テキスト   資料配布	11	の展開					
14		<del>   </del>   					
15 評価 (2時間) 授業形態 講義 演習 評価方法 筆記試験 (50%) レポート (50%) テキスト 資料配布							
授業形態 講義 演習 評価方法 筆記試験 (50%) レポート (50%) テキスト 資料配布							
評価方法 筆記試験 (50%) レポート (50%) テキスト 資料配布							
テキスト 資料配布				ート (50%)			
			,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	. (/-/			
	参考	図書	適宜紹介				

授業	科目名	老年看護	学概論	担当教員名			杉原 雅	進子(看護師	î)
実施	時期	1年	後期	単位•時間		1	単位	30	時間
ライフサイクルにおける老年期の身体的・精神的・社会的特徴を学 本授業を通して ①超高齢社会の実態を概観し、保健医療チームの一員の立場が 口の高齢化が地域社会におよぼす影響や高齢者を取り巻く保険 いて学ぶ。			Z場が	ら看護の					
到起	達目標	①高齢者の身体的 ②超高齢社会にお ③老年看護の役割	けるサポートシステム	ムとその現状、枠	霍利擁語	護を3			きる
回数	単元	単元目標		授	業	内	容		
1 2 3 4 5	老年期の理解	老年期の特徴を 把握し、老年期の 生き方を考察す る。	老いとは 加齢と老 加齢に伴う諸機能 呼吸・循環・消化 体力/運動機能 【演習】 高齢者疑似体験	の変化 /吸収・感覚/ ミ・精神・心理	<i>´</i> 知覚				
6	高齢者と社会①	高齢社会の 状況、特徴を理解する。	高齢者の統計的軸						
7	<b>(1)</b>		高齢者の健康状態						
8			高齢者とソーシャル 保健医療福祉制加 高齢者医療のしく	<b>変遷</b> み	ν <sup>ω</sup> /Ι .				
10	高齢者と社会	高齢社会におけ る社会保障、権 利擁護を理解す	高齢者を支える職 介護保険制度		〒1 <u>日</u>				
11	<b>会</b> ②	る。	高齢社会における権利擁護 高齢者に対するスティグマと差別						
12			高齢者虐待 身体への拘束 権利擁護のための	制度					
13	状態と日常生活高齢者の健康	高齢者の健康の あり方を理解し、 日常生活行動の	老年看護の成り立 老年看護の役割 老年看護の課題を						
14	生康活	援助について考える。	quality of life を高る 高齢者のリスクマ		助				
15 評価(2 時間)									
授業形態 講義 演習									
評価	西方法	筆記試験(80%) レオ	<sup>8</sup> −ト(20%)						
テ	キスト	『系統看護学講座』	専門分野 老年看護	学』医学書院					
参考図書 『国民衛生の動向』厚生統計協会 他、適宜紹介									

授業	科目名	老年看護学	方法論 I	担当教員名	橋本 武憲 外部講師	(看護師) (看護師)	
実施	時期	2 年	前期	単位•時間	1 単位		時間
授業の概要	り 要と目的	対象が加齢に伴う心身の変化を受容し健やかな生活を送れるように QOL を目指した看き学ぶ。 本授業を通して ①高齢者の加齢に伴う心身の変化や症状について病態生理学・疾病論と関連させ理解す ②生活機能の評価と看護の役割を理解し意義のある生活をもたらす支援の在り方を学ぶ。			<b>たる。</b>		
到達	<b>幸</b> 目標	①加齢に伴う心身の② ②高齢者のQOLを考			•		
回数	単元	単元目標		授 業 内	容		担当
1	身体	高齢者のアセスメント過程を理解する。 加齢に伴う諸機能	高齢者のフィジカバ 加齢に伴う身体の 外皮系 循環器	変化とアセスメントの	視点		
2	身体の加齢変化とアセスメントと看護ケア	の変化を考慮した 看護援助を理解す る。	消化器系 内分	泌系 泌尿器系 運	動器系		
3	父化とア		高齢者に見られる。 高齢者のバイタ	身体症状とアセスメ タルサインの特徴	ント		- 橋本
4	セスメン	高齢者の主要な症	痛み 掻痒				1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
5	トと看	候を理解するとともに、アセスメント技法を理解する。	コミュニケーショ	ン			
6	きケア	7,17,20	脱水				
7			嘔吐 浮腫 倦怠	怠感			
8	高級			を支える基本動作。 セスメントと看護ケ			
9	高齢者の	   高齢者の生活機能	高齢者の食事と看	護ケア			
10	生活 を整える看護の展 高齢者の排泄と表	高齢者の排泄と看記	護ケア				
11		高齢者の清潔と看	護ケア				
12	展開		高齢者の生活リズム	ムと看護ケア			外部講師
13	健康逸脱を		検査・処置を受ける 手術を受ける高齢		<u> </u>		
14	を支える看護の展開を支える看護の展開	健康逸脱からの回 復と終末期を支える 看護を理解する。	終末期における看	護ケア			
15	護の展開と終 末期	7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7	認知症について				
	16 評価(2 時間)						
授美	<b></b> 能	講義					

評価方法	筆記試験 (100%) 身体の加齢変化とアセスメントと看護ケア (50%) 高齢者の生活機能を整える看護の展開 (35%) 健康逸脱から回復と終末期を支える看護の展開 (15%)
テキスト	『系統看護学講座 専門分野 老年看護学』 医学書院 『系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論』 医学書院
参考図書	適宜紹介

授業	科目名	老年看護	学方法論Ⅱ	担当教員名	橋本 武憲	(看護師)		
実施	実施時期 2年		後期	単位・時間	1 単位	30 時間		
授業の概要と		した看護技術を学 本授業を通して ① 高齢者の生活	高齢者の生活の援助する看護技術の基本や老年期に特有な疾患に伴う症状・障害に着目した看護技術を学ぶ。 本授業を通して ① 高齢者の生活に沿った看護技術の特徴を理解する。 ② 老年期に特有な障害への看護技術を学ぶ。					
到這	<b></b>		舌を支援するための 有な疾患・症状・障					
回数	単元	単元目標		授業	内 容			
1	看護技術の 高齢者への	高齢者への看護 技術の特徴を理 解する。	高齢者への看護実	践の基本、高齢者	看護における看護	技術の活用		
2	占		高齢者の生活機能 ① 食事 ②	と看護技術 ②排泄 ③衣 ④	) 清潔 ⑤活動	⑥休息		
3	齢者の		コミュニケーションリラックスのため		析			
4	高齢者の生活機能を整える看護の展開	高齢者の生活を	【演習】	習】				
5	能を整	援助するための 基本的な看護技		尿取りパッド・おる	力つ交換)			
6	える看書	術を理解する。	【演習】					
7	護の展開		高齢者への口腔	ケア、義歯の取り	扱い			
8	用		エンパワーメントを高めるための看護技術 家族への対応技術					
9	高峪		感覚機能の変調に	対する看護技術				
10	野者に対		循環機能の変調に	対する看護技術				
11	かする蜂	古典本に批せる	転倒・転落に対す	る看護技術				
12	有な障	高齢者に特有な 障害への看護技 術を理解する。	尿失禁に対する 感染予防に対す。					
13	害への		うつ症状・認知症 対応の基本 日常		•			
14	高齢者に対する特有な障害への看護技術			看護技術 廃用症候群 ロコモ 生化 フレイル予		一厶予防		
15		評価(2時間)						
授業形態 講義		講義 演習						
評化	<b></b>	筆記試験 (80%)						
テ・	キスト	『老年看護技術 ア	専門分野 老年看記 セスメントのポイン 専門分野 老年看記	トとその根拠』	*	7		
参	考図書	適宜紹介						

授業	———— 科目名	老年看護学	上方法論Ⅲ	担当教員名	橋本 武憲	(看護師)		
実施	時期	2 年 後 期 単位・時間 1 単位 15 時				15 時間		
老化による身体機能の低下が健康障害に及ぼす影響を理解し回復への打 実践するための基礎を学ぶ。 本授業を通して ①老年期における健康障害をもつ高齢者やその家族への看護過程の展開 う。								
到過	<b>幸</b> 目標	①老年期におけ	る加齢・機能障害の物	<b>特徴をとらえた看護</b>	過程の展開ができる	0		
回数	単元	単元目標		授業	内 容			
1		加	老年期とは 老年期 認知症患者の看記					
2		齢 • 機	情報の分析					
3	±z.	能 障 害	情報の分析 アセスメント 統合全体像					
4	· 年期	を 捉 え	情報の分析 統合全体像 長期目標					
5	老年期看護の展開	た看護過						
6	开		看護上の問題 短期目標					
7		理解する	看護計画の立案					
8		る	まとめ					
	9	評価(1時間) 看護:	過程のレポート提出					
授美	業形態	講義 演習						
評価方法 筆記試験		筆記試験(30%) レ	験(30%) レポート(70%)					
『系統看護学講座 専門分野 老年看護学』医学書院 テキスト 『老年看護技術 アセスメントのポイントとその根拠』ヌーヴェルヒロカワ 『系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論』医学書院								
参考図書 適宜紹介								

授業科目名		小児看護学概論			担当教員名  田中郁子(看護師)		
実施	時期	1 年	後	期	単位・時間	1 単位	30 時間
授業の 概要と目的		子どもの権利や小児看 くことを理解し、発達段 の動向を把握し、小児を 本授業を通して ① 小児看護の対象となっ 施策を理解する。 ② 小児の成長・発達を野 知識を深める。	:階に応じ :保護する る小児の <sup>9</sup>	た日常 法律や 特徴と オ	生活の援助につ保健対策・社会	かいて学ぶ。ま 会資源について び小児看護に「	た、母子保健 「学ぶ。 関する法律・
到達	目標	① 小児看護の機能と役割 ② 小児看護の対象につい ③ 小児保健医療の動向と ④ 小児各期の成長発達の	ハて説明 <sup>*</sup> と健康の記	できる。 者問題に	こついて説明でき	きる。	
回数	単元	単元目標			授業四	勺容	
	小児看護の	小児看護の役割・小児 看護の対象を理解し、 小児看護の理念・目標 を理解する。		看護の対	牧 対象/小児看護( 寺徴と役割	の目的/	
1	児看護の特徴と理念	小児看護の変遷につい て理解し、児童の権利 や小児看護における理 論を理解する。	小児看護の変遷とこれからの小児看護 小児看護における倫理および理論 小児看護における倫理 ボウルビィの愛着理論/ピアジェの認知発達理論/ エリクソンの自我の発達理論				
2	小児看護の場	小児と家族を支援するための法律の概要と統	児童原	呆健施第 虐待の[8	き・施策 きの変遷/児童社 方止等に関する /医療費の支援/	法律/	<b>兴健</b> 法
	護の法律	計指標および小児看護の場について理解する。	小児と劉	家族に関	引する統計指標		
3	ح ا		小児看護の場と特徴 病院/在宅・家庭/保育園/学校/地域社会				·会
4	社会制度・社会制度・社会資源について理解 する。		健や7 少子4 学校6 健康増減 小児。 予防打	もの健身か親会文化となった。	関連に向けたが	=ヘルスプロモ 生/ 世代育成支援対 教育と制度 社会資源	大策法/ 一

5			小児の成長・発達 成長発達とは 成長・発達の進み方(一般原則) 心理社会的発達 免疫・反射 成長発達に影響する因子 成長発達の評価			
6	小児の成長・発達と養護	成長発達の概念と成長 発達について理解する。	小児各期の発達段階に応じた養護 新生児期の発達と養護			
7	· 発	小児各期の発達段階に 応じた日常生活の養護	乳児期の発達と養護			
8	達 と	について理解する。				
9	養護		幼児期の発達と養護			
11			学童期の発達と養護			
12			于里朔V/光连C 食陵			
13			思春期の発達と養護			
14						
1	5	評価(2時間)				
授業	形態	講義				
評価	方法	筆記試験 (100%)				
テキ	スト	『系統看護学講座 専門分野 小児看護学概論 小児臨床看護総論』医学書院				
参考図書		岡堂哲雄著 『小児ケアのための発達臨床心理学』 へるす出版 大塚香編集 『小児看護 ビジュアルナーシング』 学研 浅倉次男監修『子どもを理解する「こころ」・「からだ」・「行動」へのアプローチ』 へるす出版				

授業和	 斗目名	小児看護学方法論 I 担当教員名 外部講師(医師			(医師)			
実施	時期	2 年 前 期 単位・時間 1 単位 15			15 時間			
授業の概要と	:目的	ついて学ぶ。 本授業を通して						
到達	目標	① 小児特有の健康	問題・障害の病態生	理・診断・治療に	ついて説明できる。			
回数	単元	単元目標		授業	内 容			
1			新生児の主な疾患	染色体異常各論				
2	代謝性疾患 新生児マス - スクリーニング 先天性代謝異常 内分泌疾患 下垂体疾患 甲状腺疾患 副甲状腺疾患 副腎疾患 免疫・アレルギー疾患 免疫(生体防御)機構 免疫不全 アレルギーの多 アレルギー疾患 膠原病							
3	小児特有の	小 児 特 小児特有の健康 有 問題・障害の病態		真菌感染症 寄 皮膚疾患	•皮膚炎群 蕁麻疹		感染症	
4	小児特有の健康問題・障害	生理・診断・治療 について理解す る。	について理解す					
5	害		胃・十二指腸の	囊胞・瘻孔 横隔膜 疾患 腸の疾患 腹 患 膵臓疾患 急性	膜・腹壁の疾患			
6			悪性新生物	患 顆粒球減少症	みの暗官			
7			腎・泌尿器および	バ生殖器疾患 ・ 奇形 腎糸球体疾患	患 腎尿細管系疾患			
8				けいれん性疾患 !		• •		
9		評価(1時間)						
授業	形態	講義						
評価	方法	筆記試験(100%)						
テキ	スト	『系統看護学講座』	専門分野 小児臨床	看護各論』 医学書	院			
参考図書		桑野タイ子監修 『疾患別小児看護』 中央法規 佐地 勉編著 『ナースの小児科学』 中外医学社 馬場一雄監修 『小児生理学』 へるす出版						

授業和	4目名	小児看護	学方法論Ⅱ	担当教員名	外部講師(看)	護師)	
実施	時期	2 年 前 期 単位・時間 1 単位		1 単位	30 時間		
授業の 概要と目的		健康障害や入院が子どもや家族に及ぼす影響を理解し、子どもの発達段階を考慮した援助について学ぶ。また、小児特有の健康問題・障害の学修を想起し、さらに小児の特徴をふまえ小児におこなわれる検査や処置における看護および基本となる小児看護技術について学ぶ。 本授業を通して ① 健康障害が小児の成長・発達に与える影響や子どもと家族の生活におよぼす影響について理解する。 ② 小児期における疾病の経過別にみる小児と家族の看護について理解する。					
到達	目標				な考えについて説明 となる小児看護技術		
回数	単元	単元目標		授業	内 容		
1	臨床	健康問題およ		子どもと家族の看護 子どもと家族に与え	! る影響 子どもの健康	問題と看護	
2	におい	び入院が子どもと家族におよぼす影響を	入院中の子ど	環) に特徴づけられる もと家族の看護 看護の役割 入院中	れる看護 ¤の子どもと家族の	看護	
3	て起こりや	理解する。 小児の成長・ 発達に応じた		ごもと家族の看護 特徴と看護の役割 子どもと家族の看護			
4	特す殊い	入院・外来看護・在宅への	在宅療養中の子と在宅療養中の母	さると家族の看護 環と看護の役割・	看護		
5	・直面し	看護の継続、 特殊な状況に	災害時の子どもと				
6	の看護	おける医療の連携の必要	障害のある子ども				
7	状況や	性について理解する。	子どもの虐待と看護 虐待の分類 児童の虐待の予防と早期発見 子どもとその家族へのアプローチの仕方				
8	小旧	健康障害の	慢性期にある子と 慢性期の特徴	ごもと家族の看護 子どもと家族の看	<b></b> : : : : : : : : : : : : :		
9	小児におけ	児と家族の特	一				
10	の特徴	徴をふまえ、 小児の発達段 階を考慮した	周手術期の子どる	ちと家族の看護 徴 子どもと家族の	)看護		
11	の特徴と看護のを健康問題の	階を考慮した 看護について 理解する。	終末期にある子と終末期の特徴	- •	のとらえ方		
12				する上で必要な基礎 関係を形成する技術	楚知識 ド 家族との援助施役	析を形成する技術	
13	基本となる小児看護技術	健康障害をも つ子どもに必 要な援助技 術の意義と方	検査・処置論 <sup>3</sup> 治療・処置論 <sup>4</sup>	ョン バイタルサイ 薬物動態と薬用量 与薬 輸液管理 抑 ひ緩和 保育器の	の決定 1制 検体採取		
14	児 法を理解する。 技術		身体測定 バ	イタルサインの測	」) 赤ちゃんの抱  定 輸液療法 育器の取り扱い方		
1	5	評価(2時間)					

授業形態	講義
評価方法	筆記試験(70%) 演習課題(30%)
テキスト	『系統看護学講座 専門分野 小児看護学概論 小児臨床看護総論』 医学書院
参考図書	筒井真由美著 『これからの小児看護』 南江堂 大塚香・半田浩美編集 『小児看護 ビジュアルナーシング』 学研 多田羅龍平著 『子どもたちの笑顔を支える小児緩和ケア』 金芳堂

授業和	 斗目名	小児看護生		担当教員名	外部講師	(看護師)
実施	時期	2 年	後 期	単位・時間 1 単位 30 時間		
授業の概要と	健康問題・障害の特徴・経過に伴う子どもと家族の特徴をふまえた看護を学ぶ。る 小児看護事例の展開を通して、小児看護の特徴や小児看護師の果たす役割について終 に学ぶ。 本授業を通して ① 小児特有の健康問題・障害の特徴を理解し、健康障害のある子どもと家族に必要 援助とその方法について理解する。 ② 事例を通して、小児看護に必要な知識と技術を統合する。 ③ 自己の子ども観を育てる。			割について総合的		
到達	目標	護について	康問題・障害を想起 説明できる。 ふまえた看護過程(		害のある子どもと	家族に必要な看
回数	単元	単元目標		授 業	内 容	
1 2 3	小児特有	小児特有の健 康問題・障害を	ダウン症候群	どもと家族の看護 さもつ子どもと家族 (21 トリソミー)の 	子どもと家族の看	護
4 5 6 7	小児特有の健康問題・障害と看護	想起し、健康問題・障害のある 子どもと家族に 必要な看護に	ファロー四徴 川崎病(急性 気管支喘息の	る子どもと家族の 症の子どもと家族の 熱性皮膚リンパ節が の子どもと家族の	の看護 定候群) の子どもと 看護	≥家族の看護
9	と看護	る。	ネフローゼ症 I 型糖尿病 <i>の</i>	子どもと家族の看 候群の子どもと家 の子どもと家族の もと家族の看護	族の看護	
11	小児を対象	小児の特性を	小児を対象とした 子どもの看護 演習 小児看護の展	護の本質 小児看護		£
13	小児を対象とした看護過程	ふまえた看護 過程について 修得する。	疾患の理解アセスメン	(病態生理・治療・ ト (解釈・判断・ っている強み)		
14	程		看護上の「 看護の方「	問題の明確化 句性		
15 評価 (2時間)						
授業	形態	講義 演習				
評価	方法	筆記試験 (30%)	レポート (70%)			
テキ	スト	『系統看護学講』	莝 専門分野 小児君	看護学概論 小児路	床看護総論』 医	三学書院
			これからの小児看護 発達段階を考えたア			] ]薬出版株式会社

授業	科目名	母性看護学概論 担当教員名 外部講師(助産師 外部講師(助産師						
実施	時期	1 年 後期 単位・時間 1 単位 30			時間			
, , .	母性看護学は、女性の一生を通して健康の維持・増進・疾病の予防に関する領域で論では女性のライフサイクルからみた母性看護の対象を理解し、子どもを生み育う母性の役割遂行の視点から、健全な母性への準備・健全な家庭づくり・心身の適応を促すための施策や活動について学ぶ。また、性と生殖に関する健康と権利クティブ・ヘルス/ライツ)の考え方を基盤に生命の尊厳と価値観について学ぶ本授業を通して  ① 母性看護の概念や人間の性と生殖について学ぶ。また、母性看護を取り巻く社会の変遷と現状を知り、母性看護領域における対象を理解し、必要な看護を学ぶ。				生み育て 心身の変 と権利( ハて学ぶ。	るとい 化への (リプダ		
到	① 性・生殖の倫理的課題と性感染症の現状と予防について述べることができる。 ② 母性のライフステージの特性を踏まえて、自らの母性観・父性観を述べることが る。 ③ 母子保健統計結果を読み取り、母子保健施策との関連を述べることができる。 母子保健の関連法規と母子看護での活用の実際を述べることができる。(方法論 I せて)							
回数	単元	単元目標		授 業 内 容	3		担当	
1	母 性 看		母性とは 親になることと母母性の身体的・心 母子関係と家族発達	心理的・社会的特徴				
2	看護の	性と生殖の概念と	とと生殖の概念と 女性のライフサイクルと家族				_ 外部 講師	
3	概念と倫	母性看護の特性に セクシュアリティとは リプロダクティブヘルス/ライツ ヘルスプロモーション						
4	理		母性看護のあり方 母性看護における倫理					
5	母性		母性看護の歴史的変 母性看護の変遷	変遷と現状				
6	看護	母性の健康に影響 を及ぼす因子、母 性保健の動向と対	母子保健統計の動向	ī				
7	の変遷と現状	策について理解する。	母性看護に関する 母性看護に関連す					
8	現 状		母子看護の対象を取	文り巻く環境				
9	母性系	女性のライフサイ クルの変化と母性 の発達過程から対	女性のライフサイク 生殖器の形態・		機能の変化			
10	対象理解性看護の	の発達過程から対象を理解することができる。		性周期、妊娠の成 の成立 性分化のメス				
11	女 性	母性看護の発達課 題と健康上の問題	女性のライフサイク 思春期の健康と		東問題と看護(	1)		
12	のラ	超と健康上の問題を理解する。そして、生涯にわたる	女性のライフサイク 成熟期の健康と		東問題と看護(	2)	外部 講師	
13	イフサイ	健康な性と生殖に 関わる概念から、 看護師としてリプ	女性のライフサイク 更年期・老年期		東問題と看護 (	3)	#.4.***********************************	
14	イクルタ	ロダクティブヘル スケアについて支	性意識・性行動の発性感染症とその予	• • • • • •	受胎調節法			
15	りる看護	援する役割を学ぶ。	喫煙女性の健康と Vを受けた女性に IVに感染した女性	対する看護 H				

16	評価(2時間)
授業形態	講義
評価方法	筆記試験 (80%) 母性看護の概念と倫理・母性看護の対象理解・女性のライフサイクル各期の看護 (50%) 母性看護の変遷と現状 (30%) 授業態度・レポート (20%)
テキスト	『系統看護学講座 専門分野 母性看護学概論』医学書院
参考図書	適宜紹介

授業	科目名	母性看護学力	方法論 I	担当教員名	尾野 あゆ子	一(助産師)
実施	時期	2 年 前 期 単位·時間 1 単位 30 時				30 時間
授業概要	の と目的	女性のライフサイクルの中で、性と生殖機能の顕著な妊娠・出産・産褥の一連の過とおし、母子の健康を維持・増進し、新生児を家族の一員として迎え、親として行うな援助方法を学ぶ。 母性看護に必要な看護技術を安全に、安楽に、また対象の心に配慮し実施できる方学ぶ。 本授業を通して ① 妊娠・分娩・産褥期の母性および新生児の生理的変化を理解する。 ② 健全な母性機能を発揮するために必要な知識を学ぶ。  ① 妊娠~産褥期・新生児期にある対象の身体的・精神的・社会的変化と健康課題を				
到	<b>幸</b> 目標	できる。 ② 妊娠期・産褥期・業 ③ 妊婦・褥婦・新生! ④ 妊婦の診察に必要。 ⑤ 分娩時の呼吸法の ⑥ モデル人形での新生	所生児期のフィジカ 児への看護技術を身な看護技術が実施で 誘導方法がわかる。	ルアセスメントに必 E施できる。 ごきる。		
回数	単元	単元目標		授業内	容	
1 2 3	妊娠期の看護	妊娠期の生理と正常 な妊娠経過について 理解し、妊娠が正常 に経過するよう妊婦 および家族に対する 援助技術や方法を学 ぶ。		会的特性 スメント		<b>-</b> - - - - - - - - - - - - - - - - - -
5	分	分娩期の生理と正常 な分娩経過について	分娩期の生理的 分娩期の身体的			
7	分娩期の看護	理解し、分娩が正常に経過するよう産婦及び家族に対する援助方法を学ぶ。	産婦の心理・社会 産婦・胎児・家族 産婦と家族の看護 記録と出産振り 【演習】分娩時の	ちゃく ちゃく ちゃく ちゃく ちゃく ちゃく ちゃく かんしょ かんしょ かんしょ ちゅう ちゅう ちゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう し		
8	産褥	産褥期の生理と正常な産褥経過について 理解し、産褥期が正	産褥期の生理的3 産褥期の身体的 産褥期の心理・ 褥婦の健康状態	変化		
9	産褥期の看護	常に経過し、円滑に 社会生活に適応でき るよう褥婦及び家族	褥婦と家族の看護 身体機能の回復	i iおよび進行性変化へ	への看護	
10	護	に対する援助方法を 学ぶ。	The same of the sa			
11	新生	新生児期の特徴を理 解し、早期新生児期	新生児の生理新生児の特徴(機			
12	新生児の看護	を順調に経過できる		ント 新生児の健康状態		
13	看護	よう援助技術や方法を学ぶ。	新生児の看護 【演習】			
14		<b>抗に</b> 拥ふく 英井1日冊	沐浴、新生児	との衣服の着脱、抱·	っこの仕方、身向	本計測
15		妊娠期から新生児期 に準備する物品の実 際を知る。 【市場調査】 妊娠期から新生児期に準備する物品の特徴・費用の調査				
	16	評価 (2 時間)				
授	業形態	講義 演習				
評化	<b></b> 面方法	筆記試験(70%)演習都	参加状況・レポート	(30%)		
テ	キスト	『系統看護学講座 専	門分野 母性看護学	各論』医学書院		

授業	科目名	母性看	護学方法論Ⅱ	担当教員名	外部講師 (医師) 外部講師 (助産師					
実施	時期	2 年	2 年 後 期 単位・時間 1 単位 30 時間							
授業の概要	の と目的	ハイリスク妊婦・胎児および周産期の母子の異常症状・検査・治療を理解し、さらに、て 点と看護の基本を学ぶ。 本授業を通して ① ハイリスク状態にある妊婦・胎児および周産期の母子の異常症状・検査・治療について、 ② ハイリスクな状態にある妊婦・新生児の観察・看護のポイントを理解する。								
到這	達目標	② ハイリスク	7状態にある妊婦・胎児 な状態にある妊婦・新生 した褥婦の看護のポイン	生児の観察・看護の			<b>ぎきる。</b>			
回数	単元	単元目標		授業内	容		担当			
1	生命倫理	母性看護と 生命倫理に ついて理解 する	母性看護と生命倫理 出生前診断 不妊治 精子・卵子の商品(			母)				
2		妊娠の異常 ハイリスク妊娠 生活習慣・心理・社会的因子・体格による影響 妊娠・出産歴 偶発 身体疾患 妊娠期の感染症				・出産歴 偶発				
3			妊娠疾患 妊娠悪阻 妊娠高血圧症候群 血液型不適合妊娠 多胎妊娠		<sup>也</sup> 不適合妊娠					
4				壬娠持続時間の異常(流産 早産・切迫早産 過期妊娠) 異所性妊娠(卵管妊娠 腹膜(腹腔)妊娠 卵巣妊娠 頸管妊娠)						
5	周産期における母子の異常	産期における母子の は、おける母子の は、おける母子の は、おける母子の は、おける母子の は、おける母子の 異常の症 は、大・検査・治 と、おいた検査・治 と、おいた検査・治 に、は、おいた検査・治 と、おいた検査・治 おいたした。 まれたした。 おいたした。 おいたした。 おいたした。 はないたったした。 はないたした。 はないたした。 はないたした。 はないたした。 はないたった。 はないたした。 はないたったした。 はないたした。 はないたした。 はないたないたないた。 はないたないたなななななななななななななななななななななななななななななななな		外部講師						
6		子の	日子の	子の	子の	療について理解する。	胎児機能不全 分娩時の損傷(子宮 分娩第3期および分 分娩時異常出血(分 産科処置と産科手術 分娩 帝王切開)	分娩直後の異常(胎 分娩時出血の原因	盤の娩出遅滞 子宮 分娩時出血の鑑別	1])
7			産褥の異常(子宮復己	古不全 産褥期の発	熱 産褥血栓症 精	神障害)				
8			新生児の異常 新生児仮死 分娩外傷(頭部軟骨組織の損傷 胸鎖乳突筋血腫 腕神経叢麻痺 顔面神経麻痺 鎖骨骨折 頭蓋内出血) 低出生体重児(特有の疾患 管理・治療 予後) 高ビリルビン血症 新生児出血性疾患							
9	健									
10	康新屋	ハイリスク	ハイリスク妊婦・胎児	上への看護			外部 講師			
11	康 生児の	な状態にある人の理解								
12	の看護の妊娠婦と	と援助の方法を学ぶ。	異常経過のみられる産	5婦の看護			外部講師			
	ع									

14			異常のある褥婦の看護	外部 講師
15			異常のある新生児の看護	外部 講師
	16	評価(2時間)		
授美	<b>業形態</b>	講義		
評価方法 母性看護と生			) 命倫理・周産期における母子の異常(50%) つ妊産婦と新生児の看護(50%)	
テ	キスト	『系統看護学講』	空 専門分野 母性看護学各論』 医学書院	
参表	考図書	適宜紹介		

授美	<b></b>	母性看護学方法論Ⅲ 担当教員名 尾野 あゆ子 (助産師)				子(助産師)		
実施	<b></b> 時期	2 年 後 期 単位・時間 1 単位 15 時間						
, , .	事例を通して産褥0日目から退院までの看護過程をシミュレーションする。ウェスの視点で考え変化(進行性変化・退行性変化)を意識して展開し、臨地実習へとてる。母性看護学方法論Iでの学びをもとに、妊産褥婦への個別保健指導の指導計画案し、シミュレーションを行う。 本授業を通して ① 正常な経過をたどる褥婦・新生児(模擬患者)の看護過程の展開方法を学ぶ。② 正常経過をたどる褥婦と新生児の事例を通して、アセスメント、看護診断、目標定、計画立案、評価の看護過程について学ぶ。				臨地実習へとつなげ 指導の指導計画を立 引方法を学ぶ。			
到	達目標		たどる褥婦・新生! 婦婦への個別指導 嗄					
回数	単元	単元目標		授業	内 容			
1			看護過程の考え方 母性の特徴をふま		考え方			
2			演習(個人演習)					
3	看	褥婦・新生児	事例:正常経過を 分娩後から産褥 情報収集と整 情報のアセス	3日目までを 1 理				
4	看護の展開	の看護の特性 をふまえた看 護過程の展開 を習得する。	上た看     全体像       D展開     看護診断					
5								
6								
7			妊婦・褥婦への個	別指導計画の立	案・指導準備			
8								
9 評価 (1時間)								
授業形態講義		講義 演習	講義 演習					
評	価方法	筆記試験(50%	)レポート・授業態	渡(50%)				
テ	テキスト 『系統看護学		構座 専門分野 母性看護学各論』医学書院					
参考図書 適宜紹介								

授業	科目名	精神看護学概論	牧野 かおる (看護師)				
実施	時期	2年 前期 単位・時間 1単位 30時間					
授業の概要	と目的	精神の機能と精神のひずみの様相・原因・影響とそれらへの対応などを、心と周囲を 取り囲む人との関係、更には社会の対応など幅広い視野で学ぶ。 本授業を通して ① 精神看護を論ずるに必要な基本的知識を修得する。 ② 健全な心の発達とそれに影響を及ぼす要因および精神の危機的状況について理解する。 ③ 地域精神保健活動の概要を知り、看護の役割・機能について理解する。					
る。到達目標(2) 精神の健康に影響を (3) こころの健康問題が見る (4) 活用できる社会資源 (5) 各ライフステージ並び (6) 精神障害の概念と当			を及ぼす因子について説明 が患者並びに家族に及ぼす 原を挙げることができる。	影響について説明できる。 保健上の問題を挙げることができる。			
回数	単元	単元目標	授	竞業内容			
1	精	精神の健康や精神 の機能について理解	精神看護学とは、精神看護	の対象			
2	神看	し、精神の機能が障	ぶ障 精神看護学と理論(フロイト・ストレス理論・危機理論)				
3	神看護の基本概念	害されたときに生じる 現象や病態像につい	こころの理解①(精神機能)	)			
4	本概令	て学ぶ。また、ストレ スと対処行動につい	こころの理解②(精神症状	既要)			
5	7EA	て学ぶ。	精神医療の歴史(西欧)				
6	精神生活の	生活の場における 精神保健の問題を	精神医療の歴史(日本)				
7	保健と	知り、その援助方法を 理解する。	精神保健(概念・取り組み・	生活の場・自殺対策)			
8	とメンタルヘルスライフサイクル	各ライフステージに おけるメンタルヘルス の特徴を理解する。	こころの発達(各ライフステ	ージの心の危機)			
9	メ臨	病気に伴う心の	心身相関				
10	メンタルヘルス臨床における	健康問題を把握し、 患者や患者を支える	リエゾン精神看護				
11	<b>人る</b> 	家族の心の健康に ついて理解する。	関連法規①(精神保健福祉	上法)			
12	精		関係法規②(障害者総合支	文援法·発達障害者総合支援法)			
13	理解		精神障害者をめぐる社会の (統計・心神喪失者等医療				
14	者		精神障害と人間・家族 (共	生社会を目指して)			
15		評価 (2 時間)					

授業形態	講義
評価方法	筆記試験 (100%)
テキスト	ナーシング・グラフィカ 『情緒発達と精神看護の基本』 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 『精神障害と看護の実践』 メディカ出版
参考図書	『厚生の指標増刊 国民衛生の動向』厚生労働統計協会 適宜紹介

授業科目名		精神看護学方法論 I		担当教員名	外部講師(医師)			
実施	 時期	2 年	前期	単位・時間	1 単位	30 時間		
授業の 概要と目的		代表的な精神疾患・精神障害の概要・診断方法・治療方法について学ぶ。 本授業を通して ① 精神疾患に特有な症状や精神領域における検査・治療法および特徴的な精神疾患に ついての基本的知識を修得する。						
到達目標		<ul><li>① 精神の障害をもつ人を理解するための基礎的知識として、脳の構造と機能および精神症状・状態像について説明できる。</li><li>② 精神科領域における診断並びに検査の特徴と方法について述べられる。</li><li>③ 主な精神障害の症状・経過・治療について説明できる。</li></ul>						
回数	単元	単元目標		授 業	内 容			
1	お脳の	精神の障害をもつ 人を理解するため	脳の機能と構造	1				
2	なが精神症状の機能と構造	の基礎的知識として、脳の構造と機能および精神症状・状態像について理解する。	精神症状および状態像意識障害 知的障害、記憶障害、見当識障害、知覚障害、思考障害、感情障 害、自我意識の障害、神経心理学的症状					
3			乳幼児の	で要検査、神経学的補助 検査、神経学的補助 の精神発達検査、親 の知能機能検査		に関する検査、		
4	<b>火</b> 丰	. Wester	治療:身体療法(薬物療法、電気けいれん療法)、 精神療法(力動的精神療法、行動療法、その他の精神療法)、 リハビリテーション療法					
5	神暗		症状性を含む器質性精神障害①					
6	害の診断と検査、	精神科領域にお	症状性を含む器質性精神障害②					
7	診断	ける検査の特徴と 検査方法、治療に	てんかん					
8	と検索	ついて理解する。	精神作用物質使	<b>三用による精神およ</b>	び行動の障害			
9			統合失調症①					
10	治 療		統合失調症②					
11			気分 (感情) 障害					
12			神経症性障害、ストレス関連性障害					
13			摂食障害、睡眠	章害、パーソナリテ	イ障害			
14			発達障害、小児	・思春期で問題にな	る精神障害			
15			法制度の変遷、	入院形態				
16		評価 (2時間)						
授業形態		講義						
評価	方法	筆記試験 (100%)						
テキ	スト	ナーシング・グラフィカ 『情緒発達と精神看護の基本』 メディカ出版ナ ーシング・グラフィカ 『精神障害と看護の実践』 メディカ出版						
参考	図書	適宜紹介						

授業科目名		精神看護学方法論Ⅱ		担当教員名	外部講師(看護師) 牧野かおる(看護師)		
実施	苗時期	2年	後期	単位•時間	1単位	15 時間	
授業の 概要と目的 到達目標		精神に障害を持つ対象者の理解や援助に必要な技術と看護の役割と援助の基本ついて学ぶ。本授業を通して ① 精神科看護を展開する上で必要な基本的姿勢を習得する。 ② 精神科看護を展開する上で活用できる技法について理解する。 ① 入院から退院にむけて精神科病棟における看護の役割について説明できる。 ② 精神科看護に特徴的な技法の特徴と意義について述べられる。 ③ 患者一看護師間の相互作用を自己評価する視点について述べられる。					
口	回 単元 単元目標 授 業 内 容			担当			
1	精 神 神 基 害 本	精神看護における看護師の役割について理解する。		う護における看護師の グスモデル)	役割と基本的考え方①		
2	の看護	精神科看護における看護師の役割と基本的 (セルフケアモデル)			役割と基本的考え方②		
3	マネジメント		精神科看	牧野			
4		看護場面に共通な看護技術の特徴	患者一看	護師関係			
5	精油	と方法について 理解する。また、 診療の援助の特徴 と意義とその看護 について理解 する。	精神科看				
6	精神看護の						
7	技術	プロセスレコード				- 外部講師	
8			心理教育				
	9	評価 (1 時間)					
授業形態 講義							
評化	価方法	筆記試験 (100%) 精神障害の看護の基本、リスクアセスメント、精神看護の技術(一部) (50%) 精神看護の技術 (50%)					
テ	キスト	ナーシング・グラフィカ『情緒発達と精神看護の基本』メディカ出版 ナーシング・グラフィカ『精神障害と看護の実践』メディカ出版					
参	考図書	適宜紹介					

授業和	斗目名	精神看護学	学方法論III 担当教員名 外部講師 (看護師) 牧野かおる (看護師)					
実施	時期	2 年	後期	単位・時間	1 単位	30 時	計間	
精神に障害を持つ対象の治療経過における援助方法や疾患の回復過程における看記いて学ぶ。 本授業を通して ① 精神症状に対する看護について理解する。 ② 精神障害をもつ対象の検査・治療に伴う看護について理解する。 ③ 回復過程を支える社会保健対策の概要や地域精神医療資源について理解する。 ④ 精神障害をもつ患者の特徴をふまえた看護過程を展開するための基礎的能力を養う								
① 精神障害の各症状の特徴と観察の視点およびその看護について説明できる。 ② 検査・治療時の援助の特徴と意義、その看護について述べられる。 ③ 入院から退院に至るまでの看護介入の特徴と意義について説明できる。 ④ 精神障害をもつ対象の看護上の問題を抽出できる。 ⑤ 精神障害をもつ対象の問題解決のための計画立案ができる。 ⑥ 精神障害をもつ対象の退院支援のための方法について述べられる。							I	
□	単元	単元目標		授業内	] 容		担当	
1	精神	精神障害の各症 状の特徴と観察	不安、抑うつ状態	、精神運動興奮状	態にある患者の看護			
2	精神症状と看護	の視点およびその	の視点およびその 拒絶、自閉、昏迷、幻覚・妄想状態にある患者の看護					
3	看護	看護について理 解する。	せん妄、不眠、強迫症状、自傷、心気傾向のある患者の看護					
4	診.	検査・治療時の援 助の特徴と意義を	検査と看護	<b>倹査と看護</b>				
5	診療と看護	理解し、その看護	薬物療法、電気けいれん療法を受ける患者の看護 牧野					
6	護	について理解する。	精神療法、社会療法を受ける患者の看護					
7	回復過程と看護	精神障害について 理解し、入院治療に 関して考慮すべき視 点を明らかにする。 また、入院から退院 に至るまでの看護に ついて理解する。	入院から退院ま~	での経過				
8			演習事例:統合失	<b>ご調症患アセスメン</b>	トの視点について			
9							-	
10	看護の実践と多職種連携	精神障害をもつ	ゴードンの機能健康パターンを用いて情報整理とアセスメント					
11	実践と	<ul><li>患者の特性をふまえた看護過程の展開するための基礎的技術を修</li></ul>	統合全体像(全体関連図 全体像の成文化)患者の強み					
12	多職種		長期目標の設定				外部講師	
13	連携	得する。	看護問題の設定					
14			看鬱愐(短期目	目標・具体的な看護	活動) の立案			
15			多職種連携					

16	評価 (2時間)
授業形態	講義 演習
評価方法	筆記試験(100%) 精神症状と看護、診療と看護、回復過程と看護(50%) 看護の実践と多職種連携(50%)
テキスト	ナーシング・グラフィカ 『情緒発達と精神看護の基本』 メディカ出版ナ ーシング・グラフィカ 『精神障害と看護の実践』 メディカ出版
参考図書	適宜紹介

授業科目名		看護安全学		担当教員名	外部講師(看護師) 杉原 雅子(看護師)			
実施	時期	2 年	後 期	単位・時間	1 単位	30 時間		
授業の 概要と目的		我が国における医療安全対策や医療現場で取り組まれている安全対策の概略、事故発生のメカニズムと発生防止の考え方、看護学生としての医療事故防止対策について学ぶ。本授業を通して ① 医療安全に対する基本的な考え方、取り組みの概略を理解する。 ② 医療事故防止に向けてはチームで取り組む必要性があること、その中での自らの責任と役割を理解する。						
到達目標		<ul> <li>① 対象の権利を尊重し、安全を保障するための看護者としての責任と義務について説明できる。</li> <li>② 医療安全対策の法的位置づけ・定義・分類および医療の質の評価の必要性を説明できる。</li> <li>③ 事故発生のメカニズムについて理解し、防止対策の考え方が説明できる。</li> <li>④ 医療法の中で定められている医療機関における安全対策、事故の原因と対策、実施について説明できる。</li> </ul>						
回数	単元	単元目標	票	授	業 内 容	担当		
1	医療	対象の権利を尊重は障するための看護者						
2	医療安全と	ゆりるにめい 有護句   と義務について説明		国・看護職能団体の取り組み				
3	医療安	医療安全対策の法的位置づけ・		看護行為における医療安全				
4	医療の質	定義・分類および医 の必要性を説明でき		医療事故等の定義・分類				
5			事故発生のメカニ	ズム				
6	事 リ 故			リスクマネジメント				
7	えクマ	   事故発生のメカニ>	ズムについて	事故分析・事故対策				
8	のメカニズム	理解し、防止対策の	考え方が説明	安全文化の醸成、チームSTEPS				
9	・ネジメント	できる。		組織の取り組み、安全対策				
10	ンムトと			初期対応の考え方	、方法			
11				事故の原因と対策の検討、事故後の対応				
12	1	医療法の中で定めら	れている医療	看護業務上の危険	と防止策			
13	安全	機関における安全対		看護学生の実習と	安全	₩ E		
14	安全対策	因と対策、実施につ	いて説明でき	実習における事故	の法的責任と補償	杉原		
15	/\frac{1}{2}	る。		看護技術のリスクと安全、指導者の役割				
16		評価 (2時間)	•					
授業	形態	講義 演習						
評価方法		筆記試験 (100%) 医療安全と看護・医療の質・安全対策 (50%) 事故発生のメカニズムとリスクマネジメント (50%)						
テキ	スト	『ナーシング・グラフ	フィカ 医療安全	] メディカ出版				
参考図書		適宜紹介						

授業科目名		災害看護			担当教員名	外部講師(	(助産師)
実施	時期	3 年	後期		単位・時間	1 単位 15 時間	
授業の 概要と目的		日本各地で頻発する災害の現状を知り、被災者の生活に医療がどう関わるのかを学ぶ。 本授業を通して ① 災害が社会の変化や地域の人々の暮らしと密接に関係し、人々の生命や生活に影響を 及ぼすことを理解する。 ② 社会における看護の役割を果たすために必要な災害各期の看護活動を理解する。					
到:	達目標	① 災害および災害看護、基本対策・支援体制について説明できる。 ② 被災者・援助者の心理、災害各期の具体的な看護実践について説明できる。 ③ 実際の支援活動から災害状況や活動内容を説明できる。					きる。
回数	単元	単元目	漂			授業内容	
1	基礎知識	災害及び災害看護 礎的知識を理解す		災災	災害看護の歴史、現状、課題 災害・災害看護の歴史、定義 災害の種類と災害サイクル 災害種類別の疾病構造 災害関連死		
2	災害の発生と対応	災害関連の基本対策や国・地 方自治体と個人・民間団体と の支援体制を理解する。 災害に対ける連携 災害に関する制度 災害情報と伝達の仕組み 災害関係各機関の支援体制					
3		災害時の被災者及 心理およびケアを		被災	者・援助者のス	トレスとこころの	ケア
4	<b>)</b> 災	災害各期における 特徴や活動場所の 看護の役割につ る。	違いによる	災災			
5	災害時の支援活動	病院における災害 要性を理解し、災 る倫理的判断が述	(害時におけ		における災害看 看護における倫		
6	動	災害時のトリア 療・運搬について		1	看護に必要な技 リアージ 療・運搬	術	
7		災害時における人 生活に及ぼす影響 人々のニーズに対 援の方法を理解す	学や災害時の けする看護支	地域看護と災害 母性看護と災害 小児看護と災			
8		評価(1 時間)					
授	業形態	講義					
評	価方法	筆記試験(100%)					
テ	キスト	『系統看護学講座	専門分野	災害和	看護学・国際看護 	美学』医学書院	
参	考図書	適宜紹介					

授業科	4目名	看護管理		担当教員名	外部講師(看護師) 杉原 雅子(看護師)				
実施	時期	3 年	前期	単位・時間	1 単位	15	時間		
授業の 概要と目的		看護を実践するために看護管理、教育、倫理、制度の必要性を学ぶ。本授業を通して ① よりよい看護の提供を考察するために、看護の提供のしくみおよび、看護の提供者の資質向上の取り組みの現状を理解する。 ② 国際社会における健康問題と、国際協力の今後の課題について考察する。							
到達	目標	<ul><li>① 看護サービスの管理について、その対象や組織について説明できる。</li><li>② 看護サービスの提供者の資質の向上について実態と課題を明らかにできる。</li><li>③ 看護サービスにおける倫理に関する基本的知識と倫理的意思決定を行うための枠組みを習得する。</li></ul>							
回数	単元	単元目標 授業内容				担当			
1	<b>の管理</b> の管理	看護サービスの管理 対象や組織につい	, -	看護サービスの管	理とは				
2	看護職 の	看護サービスの提供者の資質の向 上について実態と課題を明らかにで 看護基礎教育・継続教育 きる。							
3	看護職の	看護サービスにおける倫理に関する 基本的知識と倫理的意思決定を行		倫理的課題への対応			_ 外部		
4	制度と政策看護をめぐる	を平的知識と無理! うための枠組みを	·· <del>-</del> - · · · - · · ·	倫理的な看護実践を行うために必要なこと			講師		
5	看護制度と	看護制度と看護政策する。	度と看護政策の関連を理解 看護制度-看護サービスと法制度						
6	看護と経済	看護と経済の関連の	の仕組みを理解	看護サービスと経済のしくみ 看護の人員配置基準と看護サービスの評価					
7	看護の国	保健医療・看護にお	がける国際化につ	国際交流および国 異文化の理解	際協力の仕組み		- - - 杉原		
8	国際協力	いて理解する。 国際看護活動の展開				12///			
9		評価(1時間)							
授業形態		講義							
評価方法		筆記試験 (100%) 看護管理 (75%) 国際看護 (25%)							
テキ	スト	『ナーシング・グラフィカ 看護管理』 メディカ出版 『系統看護学講座 専門分野 災害看護学・国際看護学』 医学書院							
参考	図書	厚生統計協会編 『『	厚生統計協会編 『国民衛生の動向』						

授業科目名		看護研究		担当教員名	外部講師(看護師) 外部講師(看護師) 石黒 範子(看護師)			
実施	時期	3 年	前期	単位・時間	1 単位	30 時間		
授業の概要と	:目的	ぶ。 実習で取り組んだ事 本授業を通して	実習で取り組んだ事例をケーススタディとしてまとめ、自己の看護観をレポートする。 本授業を通して ① 看護研究の過程を学び、目的が患者への効果と基礎知識の蓄積であることを理解す					
到達	目標	② 看護研究の一連	<ul><li>① 日々発展・変化する看護の分野における研究の必要性を説明できる。</li><li>② 看護研究の一連の過程を説明できる。</li><li>③ 研究におけるプレゼンテーションができる。</li></ul>					
回数	単元	授 業 内 容				担当		
1		看護における研究の	)役割			外部講師		
2		研究過程の概観				० १० विकास		
3	看護研究の始め方 ーリサーチクエスチョン					外部講師		
4		情報の検索と吟味 - 文献レビューとその方法						
5	看	文献クリティーク				外部講師		
6	護研究	研究における倫理的	的配慮					
7 8	看護研究の基礎知識	研究デザイン				外部講師		
9	和識	データの収集				外部講師		
11 12		データの分析				外部講師		
13		研究を伝える						
14	スタディ	【演習】				石黒		
15	ディ	ケーススタディレポート、看護観レポートの作成						
16 評価 (2時間)								
授業形態		講義 演習						
評価方法		筆記試験(70%) レポート(30%:ケーススタディ、看護観)						
テキ	スト	『系統看護学講座 別巻 看護研究』医学書院						
参考	図書	適宜紹介						

授業科目名		臨床看護の実	践	担当教員名	浄聖陽子(看護師)			
実加	E施時期     3 年     後 期     単位・時間     1 単位     15 時							
臨床場面で看護者としての判断や技術の統合ができるための実践について学、本授業を通して ① 複数患者を受けもち、優先順位を考えた看護計画および自己の行動計画を立る。 ② 看護実践中に起こる割り込み状況に対し、自己の対応能力を認識した上で対断する。 ③ 複数患者への看護実践を振り返り、割り込み状況への対応を含め、どうすればか、患者、看護業務、自己の臨床実践力などの視点から分析的に考察する。 ④ 自己の臨床実践力に応じ、チームメンバーと連携しながら状況に応じた看護る。						を立案し、実施す で対処方法を判 ればよかった		
到這	達目標	② 事例のアセスメント・ ③ 割り込み状況への対応	<ul><li>① 臨床における看護の実践について理解する。</li><li>② 事例のアセスメント・看護問題の明確化・看護計画を立案し、活動計画が実施できる。</li><li>③ 割り込み状況への対応についての学びを共有することができる。</li><li>④ 今後の課題を明確にすることができる。</li></ul>					
回数	単元	単元目標 授業内容						
1	臨床におけ	臨床における看護の実 践について理解する。						
2	おける看護実践		看護実践を支えるもの					
3	践の過程	事例のアセスメント・看 護問題の明確化・看護 計画の立案ができる。						
5	多重靈	多重課題への対応ができる。	臨床看護場面	と対応				
6	多重課題への対応		【演習】 ①割り込み状況 ②割り込み状況	況への対応 況での対応のリフレ	クション			
7		臨床看護実践について 学びを共有し、自己の 課題を明確にすること ができる。 事例学習・演習のふり返り 臨床看護実践における自己の課題の明確化						
8 評価 (1時間)								
授	業形態	講義 演習						
評	価方法	レポート (100%)						
テ	キスト	資料配布						
参	考図書	適宜紹介						